

ひきゐる 率 帥 將

【率】「したがふ」とも訓む字で、服従させて引きつけてゆく意。

【帥】知識で人の上に立ち、之をひきゐること。論語に「子、帥ゐるに正を以てせば、孰れか敢て正しからざらん。」

【將】才能で人の上に立ち、之をひきゐること。左傳に「子玉は、若傲の六卒を以て、中軍を將ゐる。」

ひく 引 牽 挽 輓 曳 延 惹

彈 援

【引】弓を引く義から轉じて、引き延べ、引き寄せ、引き上げ、引き進める意に用

【彈】手で、はじいてひくこと。「琴を弾く。」

【援】引きかけて引き寄せること。「賢を擧げ能を援く。」

ひくし 低 卑 矮

【低】高の反對で、最も廣く用ひる。「低地」「低唱」

【卑】地位のひくきこと。「卑賤」

【矮】身長のひくきこと。「矮人」「矮屋」

ひげ 鬚 髭 髯

【鬚】頤ひげ、又ひげの總名。音シユ。

【髭】鼻の下のひげ、口ひげ。音シ。

【髯】頬ひげ。音ゼン。髯は俗字。

★ヒの部

ふ。「引力」「引導」「誘引」

【牽】引きゆくこと。「牛を牽く。」「羊を牽く。」「音ケン。」

【挽】力を入れて引くこと。引よりも強い。「柩車を挽く。」「挽回」

【輓】挽に同じ。ただ車をひく意から、車偏に従ふ。

【曳】引きずること。「杖を曳く。」「裾を曳く。」

【延】此方へ招き寄せること。「東閣を開きて賢人を延く。」「客を延く。」

【惹】つきまとふ意。「恨を惹く。」「目を惹く。」

ひさぐ 販 鬻

【販】賣歩くこと。「負販」は、背負商人のこと。

【鬻】市場で賣ること。音イク。

ひそかに 竊 陰 私 潜 密 秘

間

【竊】人目を偷んで、忍びやかにの意。「竊に負うて逃る。」「窃は俗字。」

【陰】陽の反對で、人の居らぬかげの意。

「陰に其の私を行ふ。」

【私】公の反對で、表向でなく、内證の意。孟子に「予、未だ孔子の徒たるを得ざるも、予、私に諸を人に淑す。」

【潜】水にひそむことから轉じて、人に見えぬやうに、いつの間にかの意。「潜に之が計を爲す。」

【密】人目に觸れぬやうに、コツソリとの意。易に「機事、密ならざれば、成るを害す。」

【秘】略密と同義で、守る意を含む。

【間】隙間を見て、ソツとすること。「間に邯鄲に入る。」

ひたす 浸 漸 漬 涵 蘸

【浸】水にヒツタリとひたすこと。「浸入」

【漸】いつとなく、次第に水がしみこむこと。「漸漸」

【獨】他に相手が無く、一人のこと。「其の獨を慎む。」「獨立」

【孤】「みなしご」のことで、他に頼む所の無い意。「孤城落日」「孤立」

【特】取分けて、この物ばかりの意。

ひねる 燃 捻

【燃】指先でひねること。「鬚を燃る。」「燃糸」「燃紙」

【捻】つまみひねること。「捻出」「捻去」

ひま 隙 閒 爨

【隙】物のすさまじいこと。轉じて仲の悪いこと。「白駒の隙を過ぐるが如し。」「某と隙あり。」

【漬】水につかること。「漸漬」

【涵】水の中に、はめ込むやうにひたすこと。「虚を涵す。」「涵養」

【蘸】水中に投ずること。「花景池中に倒蘸す。」

ひとし 齊 均 等

【齊】一様に正しく揃つて、長短のないこと。「一齊」「齊整」

【均】土器を造る「ロクロ」のことで、平にして高低のないこと。「平均」「均一」

【等】同類のこと。「甲乙の和は、丙丁の和に等し。」「同等」

ひとり 獨 孤 特

【閒】忙の反對で、閒暇と連用す。

【爨】物の割れ目のことで、隙と同じく仲の悪いことに用ひる。「兩國の間に爨端を生ず。」

ひらく 開 闢 闢 啓 發 拓 披

【開】閉の反對で、最も廣く用ひる。「門を開く。」「開花」

【闢】開と略同義であるが、今まで密閉せるもの、荒廢せるものに、筋道をつける意がある。「開闢」「土を闢く。」「四門を闢く。」

【闢】知れぬ事をひらきて明白にする意。「闢明」「開闢」

【啓】導き開くこと。左傳に「將に鄭を襲

はんとす。夫人將に之を啓かんとす。」

「蒙を啓く。」

【發】もと花の開くこと。轉じて苔のやうに、内に籠つたものをひらき出すこと。

「倉廩を發く。」又矢を發つことから轉じて、事の始めをいふ。「發端」「發起」

【拓】土地をひらくこと。「開拓」

【披】分開の義で、兩方にひろげること。「雲を披く。」「披見」

ひろがへる 飄 飜 翻

【飄】風に吹かれて、ヒラヒラすること。

【飜】はねかへり、ひつくりかへること。

壯「宏大」

【汎】上へのひろいこと。「汎く疏達を爲す。」「汎論」

ひろふ 拾 掇 撫

【拾】落ちた物を取り上げること。「遺失物を拾ふ。」「拾得」

【掇】いくつも拾ひとること。「山中の薪を掇拾す。」

【撫】拾ひあつめること。「異聞を摺撫す。」

フの部

ふ 歴 經 闊

【歴】一つ一つに渡りゆくこと。「既に三

★フの部

「飜覆」

【翻】飜と同じ。音ヘン。

ひろし 廣 博 寬 闊 弘 宏 汎

【廣】狭の反對で、限りなくひろいこと。「廣大」

【博】幅の廣い意。「博學」「博愛」

【寬】物を容れるに、十分餘裕あつて、ゆつたりとひろいこと。「寬仁大度」

【闊】兩方に限あつて、その間の廣いこと。「潮平にして兩岸闊し。」「闊歩」

【弘】事の上にならして、推しひろめる意。「人能く道を弘む。」「恢弘」

【宏】規模、企圖などの廣大なこと。「宏紀を歴て、世變り風移る。」「は、一紀々々と渡り過ぎた意である。」「歴代」

【經】一渡りに過ぎゆくこと。「口を噓しうし、年を経たり。」「經過」

【閱】越と同音で、越えわたる意。ふくむ 含 銜 哺

【含】口中に物の全體を入れること。又廣く包み入れること。「含有」「包含」

【銜】半ば口に入れ、半ば口外に在ること。で、くはへる意である。「杯を銜む。」「鳥花を銜む。」「音カン。」

【哺】食物などの口中にあることで、くむこと。

ふくろ 袋 囊 囊

【袋】形の如何に拘らず、平たく、しつかりと仕立てしもの。紙入、烟草入の類。

【囊】袋に通じて用ひるが、又慣用がある。

鏡のふくろは「鏡袋」といひ、笙のふくろは「笙囊」といふ。

【囊】底の有るを囊といひ、底の無いのを囊といふ。

ふさ 房 總

【房】草木の花實が、一莖に簇生したもの。

「葡萄一房」

【總】絲の一端を束ねて、他端を散らした

もの。「紫菜の總」

と。他に見つけられぬやうにすること。

他を畏敬すること。「連山起伏す。」「伏

兵」「伏して願ふ。」「

【俯】仰の反対で、頭を下方にさげるこ

と。うつむくこと。「仰いで天に惚ぢず、

俯して人に忤ぢず。」「

【偃】足をのべ、横になつて休むこと。「偃

息」

ふせぐ 防禦 拒 拒 拒

【防】前以て用心すること。「豫防」「國防」

【禦】物事に差當つてふせぐこと。「寇を

禦ぐ。」「防禦」

【拒】「いばむ」とも訓む字で、傍へ寄せつ

ふさぐ 塞 杜 壅 窒

【塞】物を填充して、向うへ通れぬやうにすること。「門を塞ぐ。」「閉塞」

【杜】塞と同義。「とづ」とも訓む。「門を杜づ。」「杜絶」

【壅】途中に邪魔物が有つて、つかへさせること。「壅蔽」「壅塞」

【窒】穴が小さくなつて、遂に通じないやうになること。「窒息」

【伏 俯 偃】

ふす 臥 伏 俯 偃

【臥】坐や起の反対で、横にねること。「臥

床」「臥龍」

【伏】起の反対で、面を地につけてふすこ

けぬこと。「不可なる者は、之を拒ぐ。」「

又距とも書く。」「

【扞】防ぎ支へること。「手足は頭目を扞

ぐ。」「

ぶた 豕 豚 彘 猪

【豕】「ぶた」「ゐのこ」の總名。

【豚】小ぶた。

【彘】豕と同義。又後足の癒れた豕。又牝

豕。音テイ。

【猪】ゐのしし。音チヨ。

ふたつ 二 貳 兩 再

【二】物の数が二つ。

【貳】二と音義同じ。

【兩】 同様の物二つ、一對の意。輜は、車の輪二つあるを以ていふ。「兩方」「兩者」

【再】 一事を二度すること。「再拜」「再會」

ふね 舟 船 舶 艇 舫 艦

【舟】 「ふね」の總名で、支那の關西の語。

【船】 舟と同義。支那の關東の語。「船舶」

「火船」

【舶】 大船のこと。「舶載」「舶來」

【艇】 小舟のこと。「短艇」「汽艇」

【舫】 もやひ舟。兩船を並べること。「畫舫」

【艦】

いくさ船。「軍艦」

漢王の足を躪む。

【蹂】 ふみにじること。「蹂躪」

【躪】 同上。躪とも書く。

ふるし 古 故 舊 陳

【古】 今の反對で、年代の古いこと。「古人」「古賢」「古器物」

【故】 新の反對で、舊字の意に近い。「故きを温ねて、新しきを知る。」「又「故人」は、「ふるなじみ」の意。「故某」は死去した人をいふ。「故舊」

【舊】 これも新に對する字で、事物の順序の上から、多くの歳月を経過したことをいふ。「古詩、古文」といへば、古人の詩

★フの部

【奮】 勢よく勇み進むこと。「奮飛」「奮進」

【震】 雷聲が轟いて、地を動かすこと。唐書に「一たび其の忠を奮はば、名四方に震はん。」「震動」

【振】 ブルブルとふるふこと。震に似てゐるが、雷には用ひない。「衣を振ふ。」「威を振ふ。」「振動」

【揮】 手に持つてふるふこと。「筆を揮ふ。」

ふむ 履 踐 蹈 躪 蹂 躪

【履】 ふみゆくこと。「霜を履む。」「履行」

【履歷】

【踐】 ふまへてゐること。「位を踐む。」「實踐」

【蹈】

【蹈】 道路を歩むやうにふむこと。足を動かしてふみゆくこと。「水火を蹈む。」「蹈襲」

【踏】

【踏】 ふみつけること。「虎尾を踏む。」「踏破」

【躪】

【躪】 人のあとをふむこと。「三皇の高躪を躪む。」「又あとから追つかけること。「追躪」又足の先で軽くふむこと「張良、

文をいひ、「舊詩、舊文」といへば、自分の以前作つた詩文をいふ。「舊恩」「故舊」

【陳】 古くて悪くなつたことをいふ。「新陳代謝」「陳腐」

ふるふ 奮 震 振 揮 顛

【奮】 勢よく勇み進むこと。「奮飛」「奮進」

【震】 雷聲が轟いて、地を動かすこと。唐書に「一たび其の忠を奮はば、名四方に震はん。」「震動」

【振】 ブルブルとふるふこと。震に似てゐるが、雷には用ひない。「衣を振ふ。」「威を振ふ。」「振動」

【揮】 手に持つてふるふこと。「筆を揮ふ。」

(一七一)

「戈を揮ふ。」「揮毫」

【顛】ブルブルふるへること。「心顛ふ。」

「股顛ふ。」「顛動」

の部

へだつ 隔間 障阻

【隔】物と物との間に、しきりを入れること。「隔離」又相距ること遠きをいふ。

【遠隔】

【間】隙間をこしらへること。「親を間つ。」

【離間】又一つおきにする事。「間日」

は一日おきである。

【障】ささへへだてる義。「障塞」

必ずしも自慢することばかりには限らない。「誇大」「誇稱」

【矜】自ら能にはこること。書經に「汝惟矜らざるも、天下汝と能を争ふ莫し。」

【矜泰】「矜肆」

【伐】自ら功にはこること。易經に「勞して伐らず。」

はしいまま 縦 横 放 肆 恣 擅

【縦】氣儘勝手で、禮法制度を守らぬこと。

「言を縦にして慎まざれば反つて禍あり。」

【横】

理不盡に、無理に、我儘を實行すること。「横暴」「横行」

★へーホの部

【阻】道路山川などが、遮りへだてる意から、「賢者の路を阻つ。」などと用ひる。

へる 減 耗

【減】加や増の反對で、數量の少くなること。「減少」「減俸」

【耗】數量のへつて亡くなること。減は、へつて残つたものに就いていひ、耗は、へつて亡くなつたものに就いていふ。「消耗」「衰耗」

ホの部

はこる 誇 矜 伐

【誇】大言を吐くこと。大袈裟に言ふこと。

【放】羈の反對で、束縛を受けず、推し放つこと。やりつばなし。「放逸」「放恣」「豪放」

【肆】

【肆】思ふままにすること。韓文に「楊墨肆にす。」「放肆」

【恣】

【恣】肆に似て惡意がある。「將に凶欲を恣にせんとす。」「擅恣」

【擅】

【擅】專の意で、一人で勝手にすること。宋史に「擅に像を鑄、寺を造るものを禁ず。」「寵を擅にす。」

はそし 細 織

【細】

【細】絲の細いことから轉じて、廣く用ひる。「細流」「細徑」

(一七三)

【織】 細と同じであるが、「かよわい」「しなやか」の意を含んでゐる。美人の手は「織手」其の他「織月」「織眉」織は俗字。

ほとんど 殆 幾

【殆】 「あやふし」と訓む字で、十中の八九まで、それになりかかつてあぶない意。「夫人病甚しく、殆んど將に起たざらんとす。」

【幾】 「ちかし」と訓む字で、殆と大差はない。孔明の出師表に「幾と北山に敗れ、殆ど瀘關に死す。」

ほとり 邊 畔 側 瀕

【邊】 物のふち、きは。「海邊」「爐邊」

【粗】 精密でないこと。ザツトの意。史記に「請ふ大夫の爲に粗その略を陳べん。」

ほむ 褒 譽 美 賞 頌

【褒】 貶の反對で、目に立つやうにほめすめること。「褒美」「褒賞」褒は俗字である。

【譽】 毀の反對で、其の人の名譽になるやうにほめること。

【美】 刺の反對で、善をほめあらはすこと。

【賞】 罰の反對で、物品を贈つてほめすめること。「賞與」「賞美」

【頌】 功德を詩歌などに作り、形容してほめること。「頌徳」

【畔】 水のほとりであるが、邊と同義にも用ひる。「河畔」「湖畔」「墓畔」

【側】 物のそば、程近き意。「門側」「屋側」

【瀕】 水のほとり、「瀕海」

ほのは 炎 焰

【炎】 火の盛んに燃え上ること。又非常に暑いこと。「火炎」「炎熱」

【焰】 火花のこと。孔子家語に「焰々滅せすんば、焰々を若何せん。」又無形上にも用ひる。「氣焰」

ほぼ 略 粗

【略】 詳細でないこと。大體必要な事だけを取ることを「略式」

ほゆ 吠 吼 咆 哮

【吠】 主として犬のほえること。「鶏鳴狗吠」

【吼】 廣く猛獸の聲にいひ、又牛の聲にもいふ。「鯨吼ゆ」「獅子吼」

【咆】 猛獸のほえたけること。「咆哮」

【哮】 咆と同義。

ほり 堀 濠

【堀】 すべて地を掘つて水を通じたもの。

【濠】 城の周圍に在るほり。

ほろぶ 滅 亡 喪 泯

【滅】 だんだんに衰へて、遂に全く消え失せてしまふこと。「消滅」「滅亡」

【亡】 有るものが、無くなること。又物が有つても、何處へか行つてしまふこと。「存亡」「逃亡」

【喪】 「うしなふ」と訓む字で、亡と同じく、物が其處に存在せぬこと。「得喪」「喪失」

【泯】 消滅して跡のないこと。史記に「此の類の如き、泯滅して稱せられず、悲しいかな。」

マの部

まかす 任 信 委

【任】 委任する意で、先方へ委任して打ちかせること。

「尺を枉げて尋を直うす。」「枉駕」「枉屈」

まこと 誠 信 實 眞 諒 良 允

【誠】 詐の反對で、思慮勉強を待たず、中心から出た性行言語である。「誠は天道なり」「心を正しくせんと欲するものは、先その意を誠にす。」

【信】 言語の偽なきこと、言つたことに違はぬこと。論語に「朋友と交りて信あり。」

【實】 虚の反對で、物が充實充滿して、しつかりしてゐること。「實際」「忠實」

【眞】 偽の反對で、ありのままで、つくろはないこと。誠と似てゐるが、誠は心術性行の上にいひ、眞は物の實質の上にい

【信】 信用する意で、先方を信用して其の通りにすること。

【委】 先方のするがままにまかせて置くこと。

まがふ 擬 紛

【擬】 よく似てゐること。

【紛】 入りまじつて、まぎれて分り悪いこと。

まがる 曲 枉

【曲】 直の反對で、まつすぐでないこと。

「曲折」「曲解」

【枉】 もと草木の曲ること。轉じて正直の事物をまげること用ひる。「法を枉ぐ。」

ふ。 「天真」「眞贋」「寫眞」

【諒】 固く約を守ること、實と信とに通用される。

【良】 諒と同音で、「まことに」と用ひられ、「げにも」と譯す。「良に以あるかな。」

【允】 誠の古字。「允に文、允に武。」

まさじ 正 方 當 將 且 鼎

【正】 偏の反對で、正面の義。「花正に開く。」は、花が十分見頃に開いたこと。

【方】 時間の上で、さしあつたつての意。「戦方に耐なり。」「方今」

【當】 道理上斯くあるべき筈の意。「子としては當に孝なるべし。」「當然」

【將】 既の反對で、「おつつけ」「やがて」の意。論語に「將に門に入らんとし、その馬に策ちて曰く、敢て後れたるに非ざるなり、馬進まざりし也。」「將來」

【且】 その場にさしかかることで、將に似て急である。史記に「孫武の且に愛姫を斬らんとするを見て大に驚く。」「

【鼎】 方に同じ。漢書に「春秋鼎に盛なり。」「まさる 優勝 愈賢

【優】 劣の反對で、力の餘あること。ゆつたりと迫らざることを「優等」「優越」「優待」

【勝】 負の反對で、人の下に就かず、他に

過ぎまさること。「名、實に勝るは恥なり。」「勝地」「優勝」

【愈】 彼れよりも此れがまさる意で、比較上にいふ。「禹より愈れり。」「

【賢】 愚の反對で、人物の上用ひる。

まじる 交雜 參混 淆錯

【交】 彼と此と入りくむこと。「交互」「交易」「臂を交ふ。」「

【雜】 純でないことで、色々の物が入りまじること。「雜駁」「錯雜」

【參】 その仲間入をし、その事にあづかること。「參與」「參政」

【混】 見わけのつかぬやうに入りまじること。

と。「混同」「混入」

【淆】 混に近い。「混淆」「淆亂」

【錯】 入りちがひまじること。「あやまる」とも訓む字である。「錯雜」「錯誤」「交錯」

ます 増 益 滋

【増】 減の反對で、積み重ねるやうに段々多くなること。「増加」「増長」「増大」

【益】 損の反對で、下地のある上にまし加へること。「利益」「益友」

【滋】 「しげる」とも訓む字で、次第にふえること。「滋蔓」

また 又 亦 復 也

★マの部

【又】 別段にまたの意である。左傳に「祭足師を帥りて温の麥を取り、秋又成周の禾を取る。」「之を焚いて又戰ふ。」「

【亦】 これもまたの意である。史記に「功有るも亦誅せられ、功無きも亦誅せらる。」「

【復】 同じ事を二度重ねる意。「復讀むべからず。」「は同じ所を二度とは讀まれぬの意である。「復習」

【也】 亦に似て極めて軽い。俗語又は詩語に用ひる。

まつ 待 俟 俟 遲 須

【待】 確に來るべき事物をまつこと。又來

るものにあしらひをすること。「時を待ちて動く。」「待遇」

【俟】事物の自然に来るをまつこと。「後の君子を俟つ。」「

【俟】俟に同じ。

【遅】今や遅しとまつこと。「將軍の到るを遅つ。」「

【須】互に求めて相まつこと。

まつたし 全 完

【全】物事の残なく揃ふこと。多数の上にいふ。「全集」「大全」

【完】缺けた所の無いこと。一物の上にいふ。「完壁」「完固」

【稀】稠の反対で数が少いこと。まばらなこと。「月明に星稀なり。」「七十は古來稀なり。」「

【希】稀に通じて用ひる。「希有」

【罕】時の上から、たまたま、時々などの意。「子、罕に利をいふ。」「音カン。」「

【少】多の反対で、全體から見て、数の少いこと。「行人少なり。」「

まろし 圓 團 丸

【圓】方の反対で、物の角がないこと。又無形上にも用ひる。「圓熟」「圓滿」

【團】まろめ集めること。又一緒にまろく集めること。「團樂」「團結」

まつる 祭 祀 祠

【祭】いつでも、物を供へてまつること。廣く用ひる。「祭典」

【祀】定まつたまつり。左傳に「國の大事は、祀と戎とにあり。」「祭祀」

【祠】社を建てて神體を安置してまつること。又祀と通用す。「祠堂」

まもる 守 衛 護

【守】見張をすること。

【衛】周圍を取巻くこと。「護衛」「防衛」

【護】害のないやうに、大切にすること。「守護」

まれ 稀 希 罕 少

【丸】コロコロところげるやうにまろいこと。「彈丸」「丸藥」

まをす 申 白 稟 啓 奏

【申】伸と通じて、ひきのばす意があるから、事の譯柄を分るやうに述べ告げること。

【白】明白の義で、あからさまに述べること。「告白」「建白」

【稟】下から上に申上げること。「稟告」

「稟白」

【啓】口をひらいて申述べること。「啓上」「拜啓」

【奏】臣下から天子に申述べること。「奏」

上「奏聞」

目の部

み身躬

【身】 身體その物を指す。「身、健なり。」
「身を修む。」「身を棄つ。」

【躬】 「自分」での意。多くは「みづから」と訓む。「身、國史となり、躬ら載籍を覽る。」「實踐躬行」

みがく 磨 研

【磨】 玉石を擦つて、光澤を出し、綺麗にする事。

【研】 刃物をとぎみがくこと。

猥に自ら枉屈す。

みだる 亂 擾 紊 紛

【亂】 治の反對で、秩序正しく整はぬこと。

「亂世」「亂髮」

【擾】 亂に煩雜の意を兼ねて、ゴタゴタと煩はしくみだれること。「紛擾」「煩擾」

【紊】 入りみだれて、修理の立たぬこと。

「家庭紊亂」

【紛】 絲がむすばれみだるること。「紛を解く」「紛糾」

みち 道 路 途 徑

【道】 人の往來する所、それより轉じて人の當然踏み行ふべき筋道。

★ミの部

みことりの 詔 勅

【詔】 令義解に「大事を詔となし、小事を勅となす。」とあつて、即位改元等の大事に用ひる。「詔書」「大詔」

【勅】 一部の臣民、若しくは小事に用ひる。「勅旨」「勅使」「勅正しくは勅也。」

みだりに 妄 濫 漫 猥

【妄】 輕卒にすること。「妄言」「妄作」

【濫】 きまりがなく、むやみにすること。「濫賞」「濫刑」

【漫】 あてもなく、わけもなくすること。「漫然」「漫歩」

【猥】 嚴ならず、輕々しい意。出師表に「

【路】 道よりも小で、又部分的である。「路上の石。」「路傍の樹。」又路は街道筋のことで、轉じて「人世の行路」といひ、「人の末路」などと用ひる。

【途】 小道、又此處より彼處までの路筋。「出征の途に就く。」「半途」

【徑】 細みち。

みつ 満 充 實 盈

【満】 缺の反對で、有形無形を問はず、一ぱいにみつること。「満月」「満座」

【充】 隅々まで物の行き届いたこと。又さういふ風にみたすこと。歐文に「行、内に充たざれば、徳、人に備はらず。」「充

【實】「補充」

【實】虚の反對で、中に實がしかとは入つてゐること。史記に「萬民に親みて、府庫を實たす。」

【盈】縮、虧の反對で、だんだんにみちてゆくこと。「滿月」は、缺けた所の無い月の姿で、「月盈つ。」は、虧けるに對して圓くなつてゆくことをいふ。音エイ。

みづから 自 親 躬

【自】他の反對で、人手を假らず、自分で意。「自ら立ちて王となる。」「自作」

【各自】

【親】實地に我が身親しくすること。「天

子親ら春を東郊に迎ふ。」「親征」

【躬】深く身につけてすること。「實踐躬行。」

みな 皆 咸 僉

【皆】「残らず皆」の意。外から見えていふ。

【悉皆】

【咸】「どれもこれもみな」の意。内から見えていふ。「咸その徳を一にす。」

【僉】咸と同義だが、今は用ひない。

みる 見 視 觀 看 覽 瞻 觀

視 睹 相 瞰 覲

【見】先方の物が、こちらに見えて來ること。目に觸れること。「一見」

【相】善惡吉凶を見定めること。「人を相る。」「地を相る。」

【瞰】俯して見ること。「瞰下」

【覲】目上の人にまみえること。「朝覲」

【參覲】

△の部

むかふ 向 迎 邀 對

【向】背の反對で、目あての方へ正面に向くこと。「敵に向つて進む。」

【迎】送の反對で、來る人を出むかへること。中庸に「往くを送り、來るを迎ふ。」

【歡迎】

【看】

【看】目の上に手をかざして見ること。又久しく守り見ること。「山を見る。」「看病」

【看護】

【覽】一通目を通すこと。「通覽」「周覽」

【博覽】

【瞻】仰ぎ視ること。「彼の日月を瞻る。」「瞻仰」「瞻望」

【觀】見と畧同義。音コウ。

【觀、賭】同上。賭は古文。

【邀】 向から来る人を、途中に遮り待ち受けて迎へること。隋記に「煬帝東都に幸し、梁都に至れば、郡人駕を邀へて上言す。」「邀撃」

【對】 兩方向ひ合ふこと。「樓は山に對ひて立つ。」「對座」

むくゆ 報酬

【報】 返報すること。論語に「直を以て怨に報い、徳を以て徳に報ゆ。」「報恩」

【酬】 宴會で杯を反すこと。轉じて返答の義に用ひる。先方から受けた通りに返しむくゆること。「獻酬」「報酬」

むさぼる 貪婪

掬ぶ。音キク。

むち 策 鞭 答 槌 箠

【策】 馬を勵ますに用ひる竹むち。

【鞭】 同じく革のむち。

【答】 罪人を打つ竹のむち。音テ。

【槌】 同じく木のむち。音タ。

【箠】 同じく竹のむち。音ツキ。

むなし 空虚 曠

【空】 カラで、全然物の無いこと。「空手」「空言」

【虚】 實、盈の反對で、中みの無いこと。

「虚心」「虚言」

【曠】 ひろびろとして空しいこと。又物事

☆メの部

【貪】 欲深く、物を欲しがること。「貪慾」

【婪】 強欲にして飽くまで欲しがること。貪の甚だしいこと。「貪婪」

むしろ 蓆 筵

【蓆】 蒲莞で編んだ敷物。又敷物の總名。

【筵】 竹で編んだ敷物。又蓆と同義にも用ひてゐる。

むすぶ 結 締 掬

【結】 絲の端と端とを繋ぎ合はせること。

轉じて無形の上にも用ひる。「結髮」「鬱結」

【締】 しつかりと結ぶこと。「締結」「締盟」

【掬】 兩方の掌ですくひ取ること。「水を

をむだにしてゐること。「目を曠しうす。」

「職を曠しうす。」「曠野」

むら 村 邑

【村】 人の群居する處で、古文では皆邑の字を用ひてゐる。「村落」「寒村」

【邑】 都邑と熟して、もと大小を通じていつたものだが、今は小に村を用ひ、大にして繁華な處に邑を用ひてゐる。

メの部

め 目 眼

【目】 まぶた、まつげをも込めていふ。

【眼】 白たま、黒たまをいふ。又目眼通じ

て用ひる。

めぐる 繞 遠 環 巡 周 旋 運

回 廻 循 匝

【繞】物の周を離れず、まといめぐること。

「圍繞」「纏繞」

【遠】繞に同じ。

【環】輪のやうにグルリとめぐること。歐

文に「滌を環る皆山なり。」「環視」

【巡】注意して見まはること。「巡檢」「巡

狩」

【周】隅から隅まで、殘らずめぐること。

「周回」「周圍」

【旋】中心を作つて、クルクルとめぐること。

と。「旋風」「旋轉」

【運】めぐりながら進みゆくこと。「天地

の運行。」「時勢の進運。」「

【回】水のうづまき流るる貌で、同じ處を

めぐること。「回轉」「周回」回は俗字。

【廻】回と同じ。廻は俗字。

【循】ついてめぐる意。「循環」

【匝】グルリと一めぐりすること。周に似

てゐる。「三たび樹を匝る。」「音サフ。

厶の部

もつとも 最 尤

【最】第一番の意で、外に並ぶものがない

【本】末の反對で、同事物の上で本末を分

けていふ語。論語に「君子は本を務む、

本立つて道生ず。」

【原】水原の義から轉じて事物の根元をい

ふ語。食貨志に「姦邪は禁せざるべから

ず、原錢より起る。」「原因」

【元】事の始をいふ。「元日」「元年」

【固】勿論、前々からの意。「固より願ふ

所なり。」

【舊】新の反對で、過ぎ去つた跡をいふ語。

書經に「台小子、舊、甘盤に學ぶ。」「舊、

令聞あり。」

【素】絲の染らない先をいふ字で、「下地

こと。「最大」「最上」

【尤】平常の物と異つて目に立つこと。す

ぐれてゐること。韓文に「惟回鶻唐に於

いて最も親しく、職を奉ずること尤も謹

めり。」「尤物」

もてあそぶ 玩 翫 弄

【玩】もてあそび慰むこと。「玩弄」「物を

もてあそ

【翫】なれ飽くほどに慰むこと。玩に似

て意深し。「翫賞」「翫味」

【弄】なぶりものにする事。戯れ侮る意

がある。「嘲弄」「弄戲」

もと 本 原 元 固 舊 素 故

から」の意である。史記に「沛公は、素、寛大の長者なり。」「平素」

【故】以前といふ程の意で、舊に似て軽い。

「故、某校の教授たり。」

もどむ 求索 干需 要微 邀

覓 斬

【求】無い物を有るやうに欲しがりもとめることで、最も廣く用ひる。「友を求む。」「探求」「追求」

【索】さがし求めること。通鑑に「梁主、淨居殿に臥す。口苦くして蜜を索めしが得ず。」「搜索」

【干】「をかす」とも訓む字で、無理に求め

【斬】斬に通じて、いのり求めること。「年を斬む。」「首キ。」

もどる 悖戻 拂復 很

【悖】強く逆ひ、正理に違ふこと。「道並行して相悖らず。」「悖德」

【戻】和の反對で、ねち曲つて一致しないこと。「乖戻」「暴戻」「曲戻」

【拂】背反すること。悖に似て軽い。「人の惡む所を好み、人の好む所を惡む、是を人の性に拂るといふ。」

【復】人の言を聴き入れず、反對すること。「諫に復る。」「剛復」

【很】復と同義。「天に很る。」「鬪很」

ること。「諸侯に干む。」「祿を干む。」

【需】無くてはならぬと、心に期して待ち求めること。赤壁賦に「子が不時の需を待つ。」「又詩文書畫を人にもとめる時には、この字を用ひる。「應需」

【要】待ちかまへて是非にと求めること。孟子に「その天爵を修めて以て人爵を要む。」「要求」「強要」

【微】要と音義同じ。中庸に「小人險を行ひ以て幸を微む。」

【邀】微に同じ。「地を貪り功を邀む。」

【覓】尋ね求めること。索に似て輕し。「路を覓む。」「覓は俗字。」

もの 者 物

【者】生物、特に人を指して用ひる。「仁を好む者。」「顔回といふ者。」「又、事の意にも用ひる。「天下の達道五あり、之を行ふ所以の者三あり。」

【物】形體あるものには一般にいふ。「萬物」「人物」

もる 漏 洩 泄

【漏】隙間から抜け出ること。「脱漏」「漏洩」

【洩】漏と同義。この字「もる」の義の時は正音「セツ」である。

【泄】洩と音義同じ。

ヤの部

や 矢 箭

【矢】 方言に「關より東は矢といひ、關より西は箭といふ。」とあつて、地方によつて名稱が違つてゐるので、物は同じある。

【箭】 同上。

やく 焼 焚 燎 灼 煨

【焼】 燃えると燃えざるとを問はず、汎く用ひる。「焼失」「焼棄」

【焚】 火が燃えついてやけること。「林を焚く。」「焚書」

【燎】 火を放つて焼くこと。「燎原」

【灼】 熱し焼くこと。「艾を灼く。」「灼熱」
【煨】 蒸焼にすること。「栗を煨く。」「芋を煨く。」「音ワイ。

やしなふ 養 鞠 畜

【養】 物を生ひ立つて行くやうにすること。廣く用ひる。「養育」「飼養」「修養」

【鞠】 手に抱き上げて育てる意があつて、養よりも重い。「鞠育」「鞠養」

【畜】 牛馬などを飼ひやしなふこと。

やす 瘦 瘠 臞

【瘦】 肉の少くなることで、廣く用ひる。「瘦軀」

【瘠】 肥の反對で、瘦の甚しいこと。「瘠

馬

【臞】 肉の少いことで、元から肥えてゐないこと。「臞にして健」

やすし 安 寧 康 泰 綏 易

【安】 危の反對で、あぶなげがないこと。禮記に「人禮あれば安く、禮なければ危し。」「安樂」「安穩」

【寧】 安に定の意を兼ねてゐる。書經に「野に遺賢なくんば、萬邦寧し。」「安寧」

【康】 安に樂の意を兼ねてゐる。「康寧」

【安康】

【泰】 安に寛大の意を兼ねてゐる。論語に「君子は泰くして驕らず。」「泰平」「舒泰」

やなぎ 楊 柳

【楊】 枝が硬くて上に向くやなぎ。
【柳】 枝が軟で下に垂れるやなぎ。「楊柳」といへば、ただ柳のこと。

やはらか 柔 軟

【柔】 剛の反對で、主に人の氣質性情に用ひる。「柔和」「柔順」又物の上にも用ひることがある。「金は剛、木は柔、齒は剛、舌は柔。」

【軟】 硬の反對で、堅くないこと。柔は精神の剛壯でないこと。「軟弱」は身體の剛健でないことである。「軟風」

やぶる 破 敗 壞 傷 敵 弊

【破】 急にさげやぶれ、われやぶれること。又わりやぶること。「小軍を以て大軍を破る。」「糞を破る。」「傘破る。」

【敗】 成や勝の反對で、つぶれやぶれること。いつとはなしにやぶれること。「軍を破る」は急にやぶること、「軍を敗る」は漸くやぶること。「腐敗」

【壞】 くづれやぶれること。「父母嚴なら

【痾】 病が深く根に入ること。「宿痾」

【痼】 久しくして固くなつた病。「痼疾」

「沈痼」

【疚】 久病のこと。又心に憂ふること。「内に省みて疚しからず。」

やむ 止 已 罷 歇 息 輟 休

【止】 行や起の反對で、とまりやむこと。

「禁止」「居止」「留止」

【已】 事をしまひにすること。全く終ること。「秋風鳴り已ます。」「壯士死せずんば即ち已む。」廣く用ひる字ではあるが、「留止」「居止」の意は無い。

【罷】 事をやめること。又事が終ること。

ざれば、家政壞る。」「破壞」「崩壞」

【傷】 きづつきやぶれること。孟子に「人は惟人を傷らざるを恐れ、函人は惟人を傷るを恐る。」「負傷」「傷害」

【敵】 完の反對で、衣服器物などの古びて切れ破れること。轉じて無形上にもいふ。「敵衣」「敵帚」「罷敵」

【弊】 敵に同じ。

やむ 疾病 痾 痼 疚

【疾】 急にやみつくこと。「疾患」

【病】 疾の重ること。論語に「子の疾病なり。子路禱らんと請ふ。」「疾病」はやまひの通稱である。

「同盟罷業」「宴罷む」

【歇】 やみとまること。又とぎれること。「難未だ歇ます。」「間歇」

「難未だ歇ます。」「間歇」

【息】 やみたえること。「干戈息む。」「風濤息む。」

【輟】 仕事をやめること。事が終る意は無い。「耕を輟む。」「音テツ。」

【休】 歇に近し。又「やめよ」と訓んで、勿れの意に用ひる。「言ふことを休めよ。」

やや 稍 輟 差 良 寢 動

【稍】 「やや」とも「やうやく」とも訓む。都合の小なること。又少しづつの意。「兵稍卻く。」

【較】 較べて見るにの意。「春寒うして花較遅し。」は、例年に較べてやや遅いの意。

【差】 較に似てゐる。揃へて見ればややちがひのある意。「江北地寒くして田收差晚し。」

【良】 時間の上にいふ字で、ややしばらくの意。「待つこと良久し。」「良久しうして曰く。」

【寢】 「やや」とも「やうやく」とも訓む。ジリジリ次第にの意。大學の序に「三代の隆、其の法寢備はれり。正しくは淺。」

【動】 「ややもすれば」と訓む。他の字とは

意義が全然異なる。

の部

ゆく 行 往 逝 征 徂 之 如 適

【行】 止の反對で、歩いて進みゆくこと。用法甚だ廣い。「步行」「行進」

【往】 來、還、反の反對で、此方から彼方へゆくこと。「暑往き寒來る。」「往年」

【逝】 往きて還らざること。論語に「逝くものは此の如し、晝夜を舍てず。」「長逝」「逝去」

【征】 行と同義だが、多く行旅の意に用ひ

る。「單騎遠征」「征途」「征人」

【徂】 往と同義である。「徂來」「徂落」

【之】 行先を明に何處と指してゆくこと。

孟子に「去りて岐山の下に之きて居る。」

【如】 略之と同義。行く處まで行き、更に處を更へて行くこと。洒徳頌に「天に幕し、地に席し、意の如く所を縦にす。」

「衛を去つて陳に如く」

【適】 之に似て軽く、指す處へ一筋にゆくこと。孟子に「天子諸侯に適くを巡狩と曰ふ。」「我れ安にか適歸せん。」

ゆたか 豊 饒 裕 寛 優 胖

【豊】 多大にして盈ち足ること。財多く徳

大なる。皆豊といふ。「豊富」「豊年」「豊恩」

【饒】 物多くして満ち足ること。豊に似てゐるが、徳性の上には用ひない。「財用饒なり。」「豊饒」「饒舌」

【裕】 衣服がゆるりとした意から轉じて、物のタツブリとゆるやかで迫らぬこと。寛と緩との二義を兼ねてゐる。「寛裕」「餘裕」

【寛】 窄、嚴、猛などの反對で、家居や器物や人の氣象などの、ゆつたりとくつろぎのあること。「寛大」「寛厚」

【優】 劣の反對で、力が餘あること。論語

に「仕へて優なれば則ち學ぶ。」

【胖】もと身體の肥滿せることで、大きくオットリとしてゐること。廣く用ひない。大學に「心廣く體胖なり。」音ハン。

ゆるす 讓 遜 禪

【讓】自分を後にして人を先にすること。

「謙讓」「讓位」

【遜】自分が退いて他に與へること。「遜位」「謙遜」

【禪】天子が位を他に譲り渡すこと。「禪讓」

ゆるし 緩 寬

【緩】急の反對で、緊しからぬこと。

【宥】大目に罪過を見ゆるすこと。左傳に「十世之宥さん。」易に「過を赦し罪を宥す。」

にしておく意である。「容忍」「容赦」

【寬】嚴の反對で、ゆつたりとくつろぎあること。

ゆるす 許 赦 釋 宥 恕 允 免

聽 縱 容

【許】それで宜しいと認めること。「許可」「許諾」

【赦】罪過をゆるすこと。「大赦」

【釋】束縛してある者を解きゆるすこと。史記に「紂曰く、以て西伯を釋すに足る。」

【宥】大目に罪過を見ゆるすこと。左傳に「十世之宥さん。」易に「過を赦し罪を宥す。」

【放釋】

【克】その事を爲すに勝へ得ること。中庸に「大を語れば天下能く載すること莫し。」孟子に「吾れ未だ能く行ふことあらず。」

【善】人事でも自然でも、その事物が十分

【容】勘辨すること、心に耐へて其の儘

【聽】「きき届ける」「きき入れる。」の意で

【免】ゆるして免れさせること。左傳に「楚子の曰く、孤の罪なりと。皆之を免す。」

【允】成程とうけがふこと。「允許」

【恕】人情を酌み大目に見ゆるすこと。「人及ばざるあり、情を以て恕すべし。」

【宥】大目に罪過を見ゆるすこと。左傳に「十世之宥さん。」易に「過を赦し罪を宥す。」

【克】その事を爲すに勝へ得ること。中庸に「大を語れば天下能く載すること莫し。」孟子に「吾れ未だ能く行ふことあらず。」

【善】人事でも自然でも、その事物が十分

【容】勘辨すること、心に耐へて其の儘

【聽】「きき届ける」「きき入れる。」の意で

【免】ゆるして免れさせること。左傳に「楚子の曰く、孤の罪なりと。皆之を免す。」

【允】成程とうけがふこと。「允許」

【恕】人情を酌み大目に見ゆるすこと。「人及ばざるあり、情を以て恕すべし。」

【宥】大目に罪過を見ゆるすこと。左傳に「十世之宥さん。」易に「過を赦し罪を宥す。」

【克】その事を爲すに勝へ得ること。中庸に「大を語れば天下能く載すること莫し。」孟子に「吾れ未だ能く行ふことあらず。」

【善】人事でも自然でも、その事物が十分

【容】勘辨すること、心に耐へて其の儘

【聽】「きき届ける」「きき入れる。」の意で

【免】ゆるして免れさせること。左傳に「楚子の曰く、孤の罪なりと。皆之を免す。」

【允】成程とうけがふこと。「允許」

【恕】人情を酌み大目に見ゆるすこと。「人及ばざるあり、情を以て恕すべし。」

【宥】大目に罪過を見ゆるすこと。左傳に「十世之宥さん。」易に「過を赦し罪を宥す。」

【克】その事を爲すに勝へ得ること。中庸に「大を語れば天下能く載すること莫し。」孟子に「吾れ未だ能く行ふことあらず。」

【善】人事でも自然でも、その事物が十分

【容】勘辨すること、心に耐へて其の儘

至極してゐること。「善く父母に事ふるを孝となす。」「將軍善く兵を用ふ。」「善く發育す。」「

よし 善 良好 美好 佳 嘉 淑

吉

【善】 惡の反對で、道德上にいふ。「人の性や善し。」「善政」「善行」

【良】 物のすぐれてよいこと。「良工」「良馬」「良夜」又徳性が程よく調うてゐること。「善良」「温良」

【好】 事物のこのましいやうによいことで、醜惡の反對である。「風味好し。」「好時節」

【妝】 粧と同義。「妝臺」「妝梳」

【裝】 衣服を飾ること。又仕度すること。「裝飾」「旅裝」「艤裝」

より 自從 由於

【自】 「カラ」と譯して、事物の起る場所を示す。「日出自東方」(日は東方より出づ。)
【自南門入 出 自東門】(南門より入り、出づるには東門よりす。)

【從】 自は事物の起る初を示すのだが、從は中間の經歷順路を示す。「從古以然」(古より以て然り。)

【由】 從と略同義。孟子に「由平陸之齊」(平陸より齊に之く。)

【美】 醜惡の反對で、好に近く、はなやかなる意がある。「美事」「美人」「美麗」

【佳】 好と美の義を兼ねてゐる。「佳境」「佳人」

【嘉】 善美樂の三義を含んでゐる。「嘉言善行」「嘉辰」

【淑】 善と和の義を兼ねてゐる。「淑女」「淑徳」

【吉】 凶の反對で、めでたくよいこと。善人を吉人といふは、善人は必ず福を得るからである。「吉日」「吉事」

よそはふ 粧 妝 裝

【粧】 化粧すること。「粧面」「粧鏡」

【於】 事物を比較する時に用ひる。「霜葉紅於二月花」(霜葉二月の花よりも紅なり。)

よる 因 由 依據 賴 仍 憑

【因】 「それについて」と譯して、事物の原因をいふ。孔子家語に「志孝道に存す。故に孔子之に因りて以て孝經を作る。」

【因緣】

【由】 因と從との義を兼ねてゐる。「是に由りて之を觀れば。」「由來」

【依】 よりそつて離れぬことで、親みの意がある。「依頼」「依據」

【據】より處として固く守る意がある。柳文に「手づからその圖に據りて究むべし。」「城に據る。」「根據」

【賴】たのみとしてよること。大學の序に「獨この篇の存するに賴る。」「信賴」

【仍】そのままにすること。又重ねて頻りにの意。論語に「舊貫に仍らば之をいかん。何ぞ必ずしも改め爲らん。」

【憑】物にもたれかかる意。「几に憑る。」「憑依」

【凭】憑と同義であるが、たのみにする意はない。音ヒヨウ。

【倚】物によりかかること。「門に倚りて

【說】悦と同義で、音もニツである。論語に「學んで時に之を習ふ、亦説はしからずや。」

【歡】悲、憂の反對で喜んで勢あること。

「歡を盡す。」「歡迎」

【懽】歡と同義。

【欣】戚の反對で、喜が外面に出て、浮き立つて見えること。「欣々然として喜色あり。」

【怡】にこやかに和ぎ樂むこと。「怡樂」

「怡悅」

【擇】心にしみ込むやうによるこぶこと。書經に「先王之命を受けしを擇ぶ。」

待つ。「樓に倚る。」

【寄】たよりつくこと。「身、寄る所なし。」「寄寓」「寄託」

【緣】より沿ふこと。「木に緣りて魚を求むるが如し。」「これ災異の緣りて起る所也。」

よろこぶ 喜悅 說歡 懽欣

怡懽 慶

【喜】悲・憂・怒の反對で、機嫌よくうれしく思ふこと。孟子に「子路は、人之に告ぐるに過あるを以てすれば喜ぶ。」

【悅】心から樂しく思ふこと。「悅樂」「悅服」

【慶】めでたいこと。「餘慶」「慶事」

ワの部

わ環輪

【環】「たまき」と訓んで、圓形に曲つた物。「指環」「環狀」

【輪】車の輪のこと。又その形をなしてゐる物の稱。

わかし 少弱 壯若 夭嫩

【少】老の反對で、年を重ねることの少いこと。「年少氣銳」「少壯」

【弱】二十歳時代。禮記に「二十を弱と曰ひ、冠す。」「老弱」「弱年」

【壯】三十歳時代。禮記に「三十を壯と曰ひ、室あり。」「壯丁」

【若】文字本来の意義は、「なんぢ」「もし」「ごとし」「したがふ」等であつて、「わかし」の義は無い。我が國で「わかし」と訓んで、廣く用ひるのは、恐らく弱と同音である所から來たものであらう。

【夭】まだ壯ならざる者。若く美しいもの。詩經に「桃の夭々たる。」多くは「わかじに」の時に用ひる。「夭折」「夭死」「夭殤」

【嫩】樹木のなまわかいこと。「嫩芽」「柔嫩」

わく 涌 湧 沸

【涌】水が地中から噴き出ること。「涌出」

【全涌】

【湧】涌に同じ。

【沸】湯のたぎること。又水が地上に噴き出ること。「沸騰」「煮沸」

わざはひ 禍 災 殃 厄

【禍】福の反對で、不仕合のこと。「禍は口より生ず。」「大禍」

【災】自然のわざはひ、「天災」「災難」

【殃】慶の反對で、神の咎を受けること。「積不善の家には餘殃あり。」

【厄】難儀。「困厄」「災厄」

わかづ 分別 判 類 班 訣

【分】合の反對で、物を別々にわけること。又物の離れること。「人に分つた財を以てする、之を惠といふ。」「手を分つ。」「分數」

【別】區別して混ぜぬやうにすること。「夫婦別あり。」「辨別」「借別」

【判】二つに切りはなつことで、分と斷との意を兼ねてゐる。「判決」「判斷」

【類】分ち與へること。明史に「帝、佛典を塞外に頒つ。」「頒布」

【班】類と通ず。書經に「瑞を群后に班つ。」「訣」永く別れること。「訣別」「永訣」

わする 忘 遺

【忘】全く記憶になきこと。覚えてゐないこと。「忘卻」「忘恩」

【遺】ふと心に取り落すこと。「遺失」

わたる 渡 涉 濟 互 瀾 竟 徑

【渡】水の上を越えてゆくことで、廣く用ひる。「河を渡る。」「渡航」

【涉】浅い水をかちわたりすること。轉じて書物をザツと廣く見ること。「徒涉」「涉獵」

【濟】向岸まで達すること。又人を向岸まで達せしむること。渡に似て狭い。家語に「子産乗る所の輿を以て、冬涉する」

【互】 此方から彼方へ行き届く意で、水を渡ることではない。「赤虹天に互る。」

【瀾】 あまねく一面に行きわたること。「瀾漫」

【竟】 互と同義。「太白天に竟る。」「竟夕」

【徑】 「さしわたし」のことで、一直線にわたる意。史記に「高祖酒を被り、夜澤中を徑る。」

わづか 僅 纒 才 財 裁

【僅】 數量の少いこと。ちつとばかり。歐文に「識は古今に達せず、學は僅に章句を知る。」「僅少」

【纒】 「やつと」と譯す。「杖を力に纒に頂上に達す。」

【才】 音義共に纒に同じ。近思錄に「孟子よりして後、能く許大見識を將て尋究する者、才にこの人を見る。」

【財】 同上。衍義補に「上達する者財に十二のみ。」

【裁】 同上。後漢記に「妻子の衣食裁に足るのみ。」

わらふ 笑 嗤 晒

【笑】 をかしく思つて、口を開いてわらふこと。「阿々大笑す。」

【嗤】 嘲り笑ふこと。「嘲嗤」「詆嗤」「嗤

笑」

【晒】 につこりして齒を露すこと。「夫子之を晒ふ。」

われ 我 吾 余 予

【我】 彼に對していふ字で、意が重い。

【吾】 ただわれ自身を指していふので、我の如く彼に對することなし。左傳に「我れは吾が三軍を張り、吾が甲兵を被る。」

【余】 吾に近し。

【予】 同上。

類字便覽

あ

○藹アイさかんなり(一然ぜん) 靄アイもや(一暮ぼ)
 ○埃アイほこり(一塵ちん) 挨アイおす(一揆さう)
 ○握アグにぎる(一掌しやう) 渥アグあつし(一優いう)
 ○壓アツおす(一迫はく) 厭エンいとふ(一世せい)
 ○暗アンくらし(一黒くろ) 諳アンそらんず(一諳しやう)

い

○易イやすし(一容よう) 易ヤウあがる(一楊やうの本字)
 ○移イうつる(一轉てん) 侈シおごる(一奢しゃ)

○隱インかくる(一居きょ) 穩インおだやか(一和わ)
 ○印インしるし(一刷さつ) 卯インうバウ(一刻こく)
 ○困インよる(一原げん) 困コンくるしむ(一窮きゆう)
 困キンくら(一倉そう)

う

○于ウゆく(一役やく) 干ウたて(一戈か)
 汗ウけがる(一吏り) 汗ウあせ(一流りゅう)
 迂ウとほし(一關くわん) 迂ウすすむ(一釣つり)
 芋ウいも(一里り) 竿ウさな(一釣つり)
 云ウいふ(一爲ゐ) 去ウうむ

わ

★あーいーうーえの部

○貽イのこす(一訓くん) 貽イみる(一愕がく)
 貼イはる(一付ふ) 倚イよる(一門もん)
 ○意イこころ(一注ちゆう) 椅イこしかけ(一子し)
 ○遺イのこす(一物ぶつ) 竟イはる(一畢ひ)
 ○威イたけし(一風ふう) 遣イつかはす(一派は)
 ○惟イおもひみる(一思し) 威イみうち(一親しん)
 帷イとばり(一幕ぼく) 唯イただ(一一)
 ○偉イほいなり(一大だい) 維イこれ(一新しん)
 ○委イゆだね(一任にん) 緯イよこ(一經けい)
 ○溢イあふる(一充じゆう) 萎イしむる(一縮しゆく)
 縊イくびる(一死し) 隘イせまし(一狹けい)
 ○陰イひかげ(一光くわう) 隘イおくりな(一號ごう)
 蔭イおほふ(一樹じゆ)

○榮エイさかゆ(一枯こ) 營エイいとなむ(一業ぎやう)
 瑩エイはか(一墳ふん) 瑩エイたま(一瑒ぎやう)
 榮エイ川名(一穎げい) 榮エイくらむ(一惑ごく)
 ○穎エイほさき(一敏びん) 穎エイ川名(一感かん)
 ○釋エイつらぬ(一紹しやう) 譯エイとく(一翻はん)
 釋エイとく(一解かい) 驛エイうまや(一長ちやう)
 ○鐸エイすず(一木ぼく) 撥エイわき(一扶ふ)
 ○液エイしる(一體たい) 埒エイふさがる(一滅めつ)
 ○煙エイけむり(一火か) 畑エイぼた(一田畑たはた)
 烟エイけむり(一草そう) 延エイただし(一朝てう)
 ○延エイのぶ(一長ちやう) 庭エイエン(一朝てう)
 筵エイむしろ(一賀が) 庭エイエン(草の名くさのな)
 ○垣エイかき(一竹たけ) 坦エイたひらか(一平へい)

お (を)

◎ 鳴 あ (一呼) 鳴 なく (蛙)
 ◎ 歐 はく (一米) 歐 う (打)
 ◎ 嘔 はく (一吐) 謳 う (歌)
 ◎ 億 お (一兆) 憶 お (記)
 ◎ 臆 お (一病)

か (くわ)

◎ 何 な (一幾) 呵 し (一成)
 何 な (一和) 河 か (一海)
 何 な (一坎) 軻 か (一慙)
 何 な (一輕) 軻 か (一慙)
 何 な (一摩)

◎ 苛 か (一政) 荷 か (一負)
 ◎ 伽 か (一羅) 迦 か (一釋)
 ◎ 茄 か (一子) 笳 か (一胡)
 ◎ 暇 か (一疵) 假 か (一定)
 ◎ 瑕 か (一疵) 假 か (一定)
 ◎ 鍛 か (一鏗) 鍛 か (一鏗)
 ◎ 果 か (一因) 菓 か (一珍)
 ◎ 科 か (一罪) 料 か (一理)
 ◎ 瓜 か (一南) 爪 か (一牙)
 ◎ 貨 か (一幣) 貸 か (一借)
 ◎ 戈 か (一干) 弋 か (一遊)
 ◎ 戒 か (一訓) 戎 か (一衣)
 ◎ 偕 か (一樂) 楷 か (一書)

◎ 諧 か (一和) 階 か (一段)
 ◎ 概 か (一略) 慨 か (一慷)
 ◎ 漑 か (一灌) 漑 か (一灌)
 ◎ 崖 か (一壁) 涯 か (一生)
 ◎ 晦 か (一冥) 誨 か (一教)
 ◎ 悔 か (一後) 悔 か (一辱)
 ◎ 懷 か (一中) 壞 か (一破)
 ◎ 壞 か (一天) 壞 か (一夷)
 ◎ 讓 か (一謙) 釀 か (一造)
 ◎ 潰 か (一走) 潰 か (一物)
 ◎ 快 か (一愉) 快 か (一快)
 ◎ 格 か (一言) 格 か (一鬪)
 ◎ 恪 か (一勤)

★お—かの部

◎ 赫 か (一灼) 嚇 か (一威)
 ◎ 確 か (一實) 確 か (一水)
 ◎ 客 か (一舍) 容 か (一貌)
 ◎ 閣 か (一樓) 閣 か (一太)
 ◎ 滑 か (一圓) 猾 か (一狡)
 ◎ 活 か (一生) 括 か (一總)
 ◎ 刮 か (一目) 括 か (一總)
 ◎ 桿 か (一球) 程 か (一麥)
 ◎ 感 か (一動) 惑 か (一迷)
 ◎ 幹 か (一事) 幹 か (一旋)
 ◎ 勘 か (一定) 堪 か (一忍)
 ◎ 湛 か (一水) 戡 か (一定)
 ◎ 刊 か (一行) 刊 か (一定)

汗カネあせ (流リウ) 汗チけがる (一リ吏)
 緘カンとづ (封フウ) 緘シはり (一灸)
 灌クワンてそぐ (一溉) 鑿クワンつるべ (一詰)
 管クワンくだ (鐵テツ) (一笠)
 款クワンまごころ (一誠) 菅クワンすげ (一笠)
 環クワンたまき (一視) 欸アイふなうたのこゑ (一乃)
 換クワンかふ (交カウ) 還クワンかへる (生セイ)
 喚クワンよぶ (叫ケウ) 煥クワンあきらか (一發)
 歡クワンよるこぶ (一迎) 換クワンとく (一然)
 觀クワンみる (一察) 勸クワンすすむ (一誘)

き

己キおのれ (克キ) 已イすでに (一往)

已シみ (甲カウ巳)
 幾キいくばく (一何) 幾キさかひ (一内)
 饑キうう (一饑) 譏キそしる (一刺)
 季キすゐ (一節) 李キすもも (桃タウ)
 記キしるす (一事) 紀キのり (一元)
 祀シまつる (祭サイ) 祇シつしむ (一候)
 祇シかみ (神シ) (一候)
 砥シとぐ (一砥) 疑ギうたがふ (一問) 疑ギこる (一固)
 擬ギまがふ (模モ) (一問)
 宜ギよろし (便ベン) (一告)
 技ギわざ (一術) 伎キわざなき (歌カ舞ブ)
 枝シえだ (一葉) 杖チつゑ (一錫)

祈キいのる (一願) 祈セわかつ (分ブン)
 折セツをる (曲キョク) 折タクさく (一裂)
 柝タクひやうしぎ (擊キキ) 訴ソうたふ (一訟)
 碁キもとぬ (一礎) 碁キこ (圍カ)
 碁キこま (將シヤウ) (一圍)
 揮キふるふ (發ハツ) 輝キかがやく (光クワウ)
 休キウやすむ (一暇) 沐モクかみあらふ (一浴)
 朽キウくつ (一木) 巧カウたくみ (一妙)
 汲キフくむ (一水) 吸キフすふ (呼コ)
 扱キフあつかふ (取トリ) (一取)
 笈キフおひ 炭キフあやうし (一炭)
 詰キツなじる (一責) 詰カウつぐ (制セイ)
 據キヨよる (根コン) (一金) 醜キヨあつむ (一金)

★きの部

虚キヨそら (空クウ) 虐ギヤクしへたぐ (一待)
 擧キヨあぐ (選セン) 攀ハンよづ (一登)
 据キヨすう (一置) 踞キヨすわる (一坐)
 裾キヨすそ (衣イ) 裾キヨのこぎり (刀タウ)
 狂キヤウくるふ (一亂) 枉ソウまぐ (一駕)
 響キヤウひびき (音オン) 響キヤウむかふ (一導)
 響キヤウもてなす (一應) 協ケフおびやかす (一迫)
 協ケフあはす (一同) 協ケフおびやかす (一迫)
 脇ケフわき (一息) 洪キヨウこまぬく (一手)
 供キヨウそなふ (一給) 洪キヨウおほいなり (一水)
 挾ケフはさむ (一擊) 挾ケフたとこたて (仁ニ)
 狭ケフせまし (一隘) 峽カフはさま (一谷)

| | | | | |
|-------|---|------|---|------|
| 陝地名 | 陝 | (一西) | 鉄 | (一長) |
| 曉あかつき | 曉 | (一天) | 澆 | (一季) |
| 焼やく | 焼 | (一失) | 恟 | (一恟) |
| 胸むね | 胸 | (一襟) | 洵 | (一洵) |
| 陶すゑもの | 陶 | (一器) | 疆 | (一域) |
| 疆つとむ | 疆 | (一自) | 兇 | (一元) |
| 凶わるし | 凶 | (一吉) | 兢 | (一兢) |
| 競きそふ | 競 | (一争) | 矯 | (一正) |
| 矯うつくし | 矯 | (一態) | 橋 | (一架) |
| 驕おごる | 驕 | (一奢) | 茵 | (一茵) |
| 茵きのこ | 茵 | (一蕈) | 勸 | (一誘) |
| 勤つとむ | 勤 | (一勉) | | |
| 勒さざむ | 勒 | (一銘) | | |

| | | | | |
|-------|---|------|---|-------|
| 欣よろこぶ | 欣 | (一喜) | 欽 | (一定) |
| 歆うらやむ | 歆 | (一羨) | 斥 | (一排) |
| 斤の | 斤 | (一斧) | 綿 | (一木) |
| 錦にしき | 錦 | (一繡) | 香 | (一合) |
| 衾ふすま | 衾 | (一枕) | | |
| 苦くるし | 苦 | (一辛) | 若 | (一老) |
| 句ふし | 句 | (一讀) | 勾 | (一當) |
| 句とをか | 句 | (一讀) | 句 | (一國訓) |
| 勻ととのふ | 勻 | (一讀) | | |
| 具そなふ | 具 | (一備) | 貝 | (一殼) |
| 偶たまたま | 偶 | (一然) | 隅 | (一邊) |

け

| | | | | |
|-------|---|------|---|------|
| 遇あふ | 遇 | (一遭) | 喞 | (一噉) |
| 愚おろか | 愚 | (一鈍) | 屈 | (一書) |
| 屈かがむ | 屈 | (一曲) | 堀 | (一割) |
| 屈あな | 屈 | (一發) | 群 | (一集) |
| 掘ほる | 掘 | (一發) | | |
| 郡こほり | 郡 | (一縣) | | |
| 挂かく | 挂 | (一冠) | 桂 | (一肉) |
| 經たさむ | 經 | (一營) | 徑 | (一捷) |
| 掲かかぐ | 掲 | (一示) | 揚 | (一飛) |
| 楊やなぎ | 楊 | (一柳) | | |
| 警いましむ | 警 | (一察) | 驚 | (一愕) |

| | | | | |
|-------|---|------|---|------|
| 聊きみ | 聊 | (一公) | 鄉 | (一故) |
| 擊うつ | 擊 | (一攻) | 繫 | (一留) |
| 檄ふみ | 檄 | (一文) | 微 | (一幸) |
| 激はげし | 激 | (一戰) | 邀 | (一擊) |
| 藁ひこばえ | 藁 | (一萌) | 藁 | (一黄) |
| 孽 | 孽 | (一子) | | |
| 傑すぐる | 傑 | (一豪) | 磔 | (一刑) |
| 血ち | 血 | (一液) | 皿 | (一鉢) |
| 堅かたし | 堅 | (一固) | 堅 | (一横) |
| 豎こども | 豎 | (一子) | 堅 | (一横) |
| 建たつ | 建 | (一築) | 健 | (一康) |
| 券ちぎる | 券 | (一證) | 券 | (一康) |
| 拳こぶし | 拳 | (一鐵) | | |

こ

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|--|--|--|---|---|---|--|
| ◎ 儉 <small>ケン</small> つづまやか <small>(一約)</small> | ◎ 儉 <small>ケン</small> とりしまる <small>(一束)</small> | ◎ 嶮 <small>ケン</small> げはし <small>(一峻)</small> | ◎ 巖 <small>ケン</small> きびし <small>(一重)</small> | ◎ 狐 <small>コ</small> きつれ <small>(一狸)</small> | ◎ 狐 <small>コ</small> ゆみ <small>(括)</small> | ◎ 湖 <small>コ</small> みづうみ <small>(江)</small> | ◎ 餉 <small>コ</small> かゆ <small>(一口)</small> | ◎ 袴 <small>コ</small> はかま <small>(衣)</small> | ◎ 跨 <small>コ</small> またがる <small>(一有)</small> | ◎ 互 <small>コ</small> ながひに <small>(相)</small> |
| 檢 <small>ケン</small> しらぶ <small>(一查)</small> | 險 <small>ケン</small> けはし <small>(一危)</small> | 驗 <small>ケン</small> しろし <small>(一試)</small> | 巖 <small>ケン</small> いはほ <small>(一窟)</small> | 孤 <small>コ</small> みなしこ <small>(一兒)</small> | 狐 <small>コ</small> 赤子の泣聲 <small>(一呱)</small> | 糊 <small>コ</small> のり <small>(一塗)</small> | 誇 <small>コ</small> はこる <small>(一張)</small> | 互 <small>コ</small> わたる <small>(連)</small> | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|---|---|--|--|--|---|--|
| ◎ 巨 <small>クワン</small> もとむ <small>(櫃に同じ)</small> | ◎ 午 <small>ゴ</small> うま <small>(正)</small> | ◎ 護 <small>ゴ</small> まもる <small>(保)</small> | ◎ 穫 <small>クワク</small> かる <small>(收)</small> | ◎ 攻 <small>コウ</small> せむ <small>(一擊)</small> | ◎ 苟 <small>コウ</small> かりそめ <small>(一旦)</small> | ◎ 苟 <small>コウ</small> 姓 <small>(一子)</small> | ◎ 候 <small>コウ</small> さふらふ <small>(時)</small> | ◎ 抗 <small>カウ</small> あたる <small>(抵)</small> | ◎ 衡 <small>カウ</small> はかり <small>(權)</small> | ◎ 衡 <small>カン</small> ふくむ <small>(馬)</small> | ◎ 構 <small>コウ</small> かまふ <small>(一造)</small> | ◎ 講 <small>カウ</small> とく <small>(一義)</small> |
| 牛 <small>ギウ</small> うし <small>(一馬)</small> | 獲 <small>クワク</small> う <small>(捕)</small> | 螻 <small>クワク</small> 尺とり蟲 <small>(尺)</small> | 攷 <small>コウ</small> かんがふ <small>(考の故字)</small> | 符 <small>コウ</small> やな <small>(考の故字)</small> | 笱 <small>シユン</small> たけのこ <small>(春)</small> | 俟 <small>コウ</small> きみ <small>(一伯)</small> | 坑 <small>カウ</small> あな <small>(炭)</small> | 衝 <small>シヨウ</small> つく <small>(一突)</small> | 構 <small>コウ</small> ひく <small>(一和)</small> | 構 <small>コウ</small> しきみ <small>(一和)</small> | | |

ろ

| | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|---|--|--|---|---|--|--|---|--|--|
| ◎ 購 <small>コウ</small> あがなふ <small>(一求)</small> | ◎ 興 <small>コウ</small> おこる <small>(一起)</small> | ◎ 狎 <small>カフ</small> なる <small>(一臣)</small> | ◎ 硬 <small>カウ</small> かたし <small>(一軟)</small> | ◎ 稿 <small>カウ</small> かる <small>(一木)</small> | ◎ 稿 <small>カウ</small> むぎらふ <small>(一勞)</small> | ◎ 盲 <small>カウ</small> むなもと <small>(膏)</small> | ◎ 違 <small>カウ</small> いとま <small>(一急)</small> | ◎ 獄 <small>ゴク</small> ひとや <small>(監)</small> | ◎ 穀 <small>コク</small> たなつもの <small>(米)</small> | ◎ 穀 <small>コク</small> もち <small>(羅)</small> | ◎ 忽 <small>コツ</small> だちまち <small>(一然)</small> | ◎ 懇 <small>コン</small> れんごる <small>(一切)</small> |
| 溝 <small>コウ</small> みぞ <small>(一渠)</small> | 與 <small>ヨ</small> あたふ <small>(賞)</small> | 押 <small>アフ</small> おす <small>(一捺)</small> | 硬 <small>カウ</small> ただし <small>(一直)</small> | 稿 <small>カウ</small> したがり <small>(原)</small> | 盲 <small>マウ</small> めくら <small>(一目)</small> | 逞 <small>テイ</small> たくまし <small>(不)</small> | 嶽 <small>ガク</small> たけ <small>(山)</small> | 穀 <small>カク</small> から <small>(地)</small> | 穀 <small>コク</small> こしき <small>(輦)</small> | 忽 <small>ソウ</small> いそぐ <small>(一忽)</small> | 懇 <small>コン</small> ひらく <small>(開)</small> | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|---|--|--|--|--|---|--|--|
| ◎ 昆 <small>コン</small> あに <small>(一弟)</small> | ◎ 差 <small>サ</small> たがふ <small>(一別)</small> | ◎ 嗟 <small>サ</small> なげく <small>(一歎)</small> | ◎ 瑣 <small>サ</small> こまかし <small>(一末)</small> | ◎ 坐 <small>ザ</small> すわる <small>(一起)</small> | ◎ 采 <small>サイ</small> とる <small>(一配)</small> | ◎ 裁 <small>サイ</small> うう <small>(一培)</small> | ◎ 催 <small>サイ</small> もよほす <small>(一促)</small> | ◎ 齊 <small>サイ</small> ひとし <small>(一一)</small> | ◎ 濟 <small>サイ</small> すむ <small>(返)</small> | ◎ 儕 <small>セイ</small> ともがら <small>(一輩)</small> |
| 昆 <small>コン</small> たすく <small>(茶)</small> | 差 <small>シウ</small> はつ <small>(一恥)</small> | 嗟 <small>サ</small> はし <small>(一峨)</small> | 鎖 <small>サ</small> くさり <small>(一鐵)</small> | 座 <small>ザ</small> すわる處 <small>(一客)</small> | 采 <small>ヘン</small> わか <small>(辨の本字)</small> | 裁 <small>サイ</small> たつ <small>(一判)</small> | 催 <small>サイ</small> くたく <small>(一折)</small> | 齋 <small>サイ</small> ものいみ <small>(一戒)</small> | 擠 <small>サイ</small> おしおとす <small>(排)</small> | |

| | | | |
|---------------------------|------------------------|--------------------------|------------------------|
| ◎債 <small>サイ</small> かり | (一)權 <small>ケン</small> | 漬 <small>シ</small> つく | (一)物 <small>モノ</small> |
| ◎作 <small>サク</small> つくる | (一)文 <small>モン</small> | 昨 <small>サク</small> きのふ | (一)今 <small>イマ</small> |
| ◎祚 <small>ソク</small> くらのゐ | (一)寶 <small>ホウ</small> | 詐 <small>サ</small> いつばる | (一)欺 <small>キ</small> |
| ◎柵 <small>サク</small> とりで | (一)鐵 <small>テツ</small> | 棚 <small>ハカ</small> たな | (一)書 <small>シヨ</small> |
| ◎斬 <small>ザン</small> きる | (一)罪 <small>ズイ</small> | 斲 <small>ザン</small> たかし | (一)然 <small>ゼン</small> |
| ◎慚 <small>ザン</small> はづ | (一)無 <small>ム</small> | 漸 <small>ゼン</small> やうやく | (一)次 <small>ジ</small> |
| ◎暫 <small>ザン</small> しばらく | (一)時 <small>ジ</small> | 塹 <small>ゼン</small> はり | (一)壕 <small>ガウ</small> |
| ◎讒 <small>ザン</small> そしる | (一)言 <small>ゲン</small> | 纒 <small>サイ</small> わづかに | |

し (七)

| | | | |
|------------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ◎史 <small>シ</small> ふみ | (一)歷 <small>レキ</small> | 吏 <small>リ</small> つかさ | (一)官 <small>クワン</small> |
| ◎子 <small>シ</small> コシ | (一)父 <small>フ</small> | 子 <small>シ</small> ひとり | (一)子 <small>シ</small> |
| ◎矢 <small>シ</small> ヤ | (一)弓 <small>キウ</small> | 失 <small>シツ</small> しなふ | (一)得 <small>トク</small> |

| | | | |
|---------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|
| ◎仕 <small>シ</small> つかふ | (一)官 <small>クワン</small> | 任 <small>ニン</small> まかす | (一)委 <small>イ</small> |
| ◎使 <small>シ</small> つかふ | (一)用 <small>ヨウ</small> | 便 <small>ベン</small> たより | (一)利 <small>リ</small> |
| ◎斯 <small>シ</small> この | (一)道 <small>ダウ</small> | 期 <small>キ</small> とき | (一)限 <small>ゲン</small> |
| ◎姿 <small>シ</small> すがた | (一)容 <small>ヨウ</small> | 婆 <small>バ</small> ばば | (一)老 <small>ラウ</small> |
| ◎恣 <small>シ</small> ほしいまま | (一)放 <small>ホウ</small> | | |
| ◎刺 <small>シ</small> さす | (一)名 <small>メイ</small> | 刺 <small>ラツ</small> もとる | (一)瀝 <small>リツ</small> |
| ◎紫 <small>シ</small> むらさき | (一)色 <small>シキ</small> | 柴 <small>サイ</small> しば | (一)門 <small>モン</small> |
| ◎帥 <small>シ</small> のり | (一)教 <small>ケウ</small> | 帥 <small>ス</small> ひきふる | (一)元 <small>ゲン</small> |
| ◎嗤 <small>シ</small> わらふ | (一)笑 <small>セウ</small> | 媼 <small>オン</small> みにくし | (一)妍 <small>ケン</small> |
| ◎施 <small>シ</small> ほどこす | (一)實 <small>ジツ</small> | 旋 <small>セン</small> めぐる | (一)周 <small>シュウ</small> |
| ◎治 <small>シ</small> なさむ | (一)政 <small>セイ</small> | 治 <small>チ</small> いる | (一)陶 <small>トウ</small> |
| ◎侍 <small>シ</small> むらひ | (一)近 <small>キン</small> | 待 <small>タイ</small> まつ | (一)遇 <small>ユ</small> |

☆しの部

| | | | |
|----------------------------|-------------------------|---------------------------|-------------------------|
| ◎持 <small>チ</small> もつ | (一)所 <small>ショ</small> | 峙 <small>チ</small> そばだつ | (一)立 <small>リツ</small> |
| ◎特 <small>トク</small> ことに | (一)別 <small>ベツ</small> | | |
| ◎識 <small>シキ</small> しる | (一)知 <small>チ</small> | 織 <small>シヨク</small> おる | (一)組 <small>クミ</small> |
| ◎幟 <small>シ</small> のぼり | (一)旗 <small>キ</small> | 幟 <small>シ</small> かんなり | (一)烈 <small>リツ</small> |
| ◎軸 <small>ヂク</small> しんぎ | (一)車 <small>シャ</small> | 軸 <small>ヂク</small> へさき | (一)轡 <small>リウ</small> |
| ◎漆 <small>シツ</small> うるし | (一)器 <small>キ</small> | 膝 <small>シツ</small> ひざ | (一)行 <small>キョウ</small> |
| ◎灸 <small>シヤ</small> あふる | (一)膾 <small>クワイ</small> | 灸 <small>キツ</small> やいと | (一)點 <small>テン</small> |
| ◎借 <small>シヤク</small> かる | (一)貸 <small>タイ</small> | 借 <small>セキ</small> をしむ | (一)陰 <small>イン</small> |
| ◎措 <small>ソク</small> おく | (一)置 <small>チ</small> | | |
| ◎瀉 <small>シヤ</small> そそぐ | (一)一 <small>イチ</small> | 瀉 <small>セキ</small> かた | (一)新 <small>シン</small> |
| ◎若 <small>シヤク</small> わかし | (一)老 <small>ラウ</small> | 苦 <small>ク</small> くるしむ | (一)勞 <small>ラウ</small> |
| ◎酒 <small>シユ</small> さけ | (一)飲 <small>イン</small> | 酒 <small>シヤク</small> そそぐ | (一)落 <small>ラク</small> |
| ◎須 <small>シユ</small> すべからく | (一)臾 <small>ユ</small> | 順 <small>ジュン</small> したがふ | (一)序 <small>ジヨ</small> |

| | | | |
|----------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------------------|
| ◎儲 <small>ウエ</small> はらぐ | (一)教 <small>ケウ</small> | 濡 <small>ウエ</small> ぬる | (一)衣 <small>イ</small> |
| ◎懦 <small>ノ</small> よわし | (一)弱 <small>ジュウク</small> | 孺 <small>ニョ</small> すれ | (一)當 <small>トウ</small> |
| ◎拾 <small>シツ</small> ひろふ | (一)得 <small>トク</small> | 捨 <small>シヤ</small> すつ | (一)取 <small>シヨ</small> |
| ◎修 <small>シユ</small> むさむ | (一)身 <small>シン</small> | 脩 <small>シユ</small> ほしにく | (一)束 <small>ソク</small> |
| ◎集 <small>シツ</small> あつまる | (一)會 <small>クワイ</small> | 隼 <small>ジュン</small> はやぶさ | (一)人 <small>ニン</small> |
| ◎衆 <small>シユ</small> おほし | (一)多 <small>タ</small> | 聚 <small>シユ</small> あつむ | (一)散 <small>サン</small> |
| ◎州 <small>シウ</small> くに | (一)縣 <small>ケン</small> | 洲 <small>シウ</small> しま | (一)歐 <small>オウ</small> |
| ◎什 <small>シツ</small> つかふ | (一)器 <small>キ</small> | 汁 <small>シツ</small> しる | (一)墨 <small>ボク</small> |
| ◎從 <small>ジュウ</small> したがふ | (一)僕 <small>ボク</small> | 徒 <small>ト</small> ともがら | (一)生 <small>セイ</small> |
| ◎徙 <small>シ</small> うつる | (一)遷 <small>セン</small> | | |
| ◎縱 <small>ジュウ</small> たて | (一)横 <small>ヨウ</small> | 蹤 <small>シヨク</small> あと | (一)追 <small>ツイ</small> |
| ◎淑 <small>シユク</small> よし | (一)女 <small>ニョ</small> | 椒 <small>セウ</small> さんせう | (一)蕃 <small>ハン</small> |
| ◎暑 <small>シヨ</small> あつし | (一)炎 <small>エン</small> | 署 <small>シヨ</small> つかさどる | (一)官 <small>クワン</small> |

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------|
| ◎雙 <small>セキ</small> ひとつ | ◎折 <small>セツ</small> なる | ◎切 <small>セツ</small> さる | ◎巧 <small>カウ</small> たくみ | ◎選 <small>セン</small> えらぶ | ◎繕 <small>ゼン</small> つくらふ | ◎再 <small>ゼン</small> ゆくさま | ◎潛 <small>セン</small> ひそむ | ◎僭 <small>セン</small> たがふ | ◎專 <small>セン</small> もつばら | ◎宣 <small>セン</small> のぶ | ◎錢 <small>ゼン</small> ぜに |
| (一)手 <small>しゆ</small> | (一)屈 <small>くつ</small> | (一)斷 <small>だん</small> | (一)妙 <small>めう</small> | (一)舉 <small>きよ</small> | (一)修 <small>しゆ</small> | (一)冉 <small>ぜん</small> | (一)心 <small>しん</small> | (一)越 <small>えつ</small> | (一)門 <small>もん</small> | (一)戰 <small>せん</small> | (一)金 <small>きん</small> |
| 雙 <small>サウ</small> ならぶ | 折 <small>セキ</small> わかたつ | 功 <small>コウ</small> いさを | 撰 <small>セン</small> つくる | 膳 <small>ゼン</small> そなふ | 膳 <small>ゼン</small> そなふ | 再 <small>サイ</small> ふたたび | 潛 <small>サン</small> なみた流る | 譜 <small>シン</small> せしる | 專 <small>フ</small> しく | 宜 <small>ギ</small> よろし | 餓 <small>ヘン</small> はなむけ |
| (無) <small>む</small> | (分) <small>ぶん</small> | (一)勞 <small>ろう</small> | (一)著 <small>ちやく</small> | (一)食 <small>しやく</small> | (一)三 <small>さん</small> | (一)然 <small>ぜん</small> | (一)毀 <small>き</small> | (數)同 <small>おな</small> | (適) <small>てき</small> | (一)別 <small>べつ</small> | |

そ

| | | | | | | | | | | |
|------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|-------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|
| ◎祖 <small>ソ</small> もと | ◎粗 <small>ソ</small> あらし | ◎沮 <small>ソ</small> はばむ | ◎組 <small>ソ</small> くむ | ◎蘇 <small>ソ</small> よみがへる | ◎聰 <small>ソ</small> とし | ◎操 <small>サウ</small> あやつる | ◎燥 <small>サウ</small> かわく | ◎爽 <small>サウ</small> さわやか | ◎壯 <small>サウ</small> さかんなり | ◎側 <small>ソク</small> かたはら |
| (一)先 <small>せん</small> | (精) <small>せい</small> | (一)喪 <small>さう</small> | (一)織 <small>し</small> | (一)生 <small>せい</small> | (一)明 <small>めい</small> | (體) <small>たい</small> | (一)乾 <small>かん</small> | (一)快 <small>くわい</small> | (一)健 <small>けん</small> | (一)面 <small>めん</small> |
| 阻 <small>ソ</small> はし | 租 <small>ソ</small> みつき | 狙 <small>ソ</small> ねらふ | 祖 <small>ソ</small> はだぬぐ | 薊 <small>ケイ</small> あざみ | 總 <small>ソウ</small> すべて | 縲 <small>サウ</small> くる | 夾 <small>ケフ</small> はさむ | 莊 <small>サウ</small> おごそか | 測 <small>ソク</small> はかる | |
| (一)險 <small>けん</small> | (一)稅 <small>ぜい</small> | (一)擊 <small>げき</small> | (左) <small>さ</small> | (鬼) <small>き</small> | (一)稱 <small>しやう</small> | (一)合 <small>がふ</small> | (一)擊 <small>げき</small> | (一)嚴 <small>げん</small> | (一)量 <small>りやう</small> | |

た

| | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------|------------------------|-------------------------|
| ◎惻 <small>ソク</small> いたむ | ◎俗 <small>ソク</small> いやし | ◎損 <small>ソン</small> うしなふ | ◎墮 <small>ソク</small> おつ | ◎惰 <small>ダ</small> おこたる | ◎隨 <small>ズ</small> したがふ | ◎墜 <small>ツ</small> おつ | ◎朶 <small>ダ</small> えだ | ◎第 <small>ダイ</small> ついで | ◎代 <small>ダイ</small> よ | ◎苔 <small>タイ</small> こけ |
| (一)隱 <small>いん</small> | (一)人 <small>じん</small> | (一)益 <small>えき</small> | (一)石 <small>せき</small> | (一)怠 <small>たい</small> | (一)行 <small>かう</small> | (一)落 <small>らく</small> | (一)萬 <small>まん</small> | (一)次 <small>し</small> | (一)歷 <small>れき</small> | (一)青 <small>あを</small> |
| 浴 <small>ヨク</small> あみ | 捐 <small>エン</small> すつ | 隋 <small>ズ</small> 國名 | 墮 <small>ダ</small> おつ | 隋 <small>ズ</small> おこたる | 隨 <small>ズ</small> したがふ | 墜 <small>ツ</small> おつ | 朶 <small>ダ</small> はらむ | 弟 <small>テイ</small> おとと | 伐 <small>バツ</small> うつ | 苔 <small>タイ</small> むち |
| (一)沐 <small>もく</small> | (義) <small>ぎ</small> | (一)唐 <small>たう</small> | (一)落 <small>らく</small> | (一)圍 <small>ゐん</small> | (一)圍 <small>ゐん</small> | (一)圍 <small>ゐん</small> | (一)姪 <small>しん</small> | (一)兄 <small>けい</small> | (一)征 <small>せい</small> | (一)鞭 <small>べん</small> |

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|----------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ◎戴 <small>ダイ</small> いたたく | ◎泰 <small>タイ</small> やすし | ◎奏 <small>ソウ</small> かなづ | ◎態 <small>タイ</small> さま | ◎堆 <small>タイ</small> うづたかし | ◎推 <small>ツイ</small> おす | ◎推 <small>ツイ</small> おす | ◎推 <small>ツイ</small> おす | ◎推 <small>ツイ</small> おす | ◎推 <small>ツイ</small> おす | ◎推 <small>ツイ</small> おす |
| (一)頂 <small>ちやう</small> | (一)平 <small>へい</small> | (一)樂 <small>らく</small> | (一)度 <small>ど</small> | (一)積 <small>せき</small> | (一)積 <small>せき</small> | (一)積 <small>せき</small> | (一)積 <small>せき</small> | (一)積 <small>せき</small> | (一)積 <small>せき</small> | (一)積 <small>せき</small> |
| 載 <small>サイ</small> のす | 秦 <small>シン</small> 國名 | 熊 <small>ユウ</small> くま | 推 <small>ス</small> おす | 推 <small>ス</small> おす | 推 <small>ス</small> おす | 推 <small>ス</small> おす | 推 <small>ス</small> おす | 推 <small>ス</small> おす | 推 <small>ス</small> おす | 推 <small>ス</small> おす |
| (一)滿 <small>まん</small> | (一)楚 <small>そ</small> | (一)掌 <small>しやう</small> | (一)理 <small>り</small> | (一)圓 <small>ゐん</small> | (一)選 <small>せん</small> | (一)長 <small>ちやう</small> | (一)孤 <small>こ</small> | (一)望 <small>ぼう</small> | (一)望 <small>ぼう</small> | (一)望 <small>ぼう</small> |

| | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|---------------------------|
| 檀 <small>ダ</small> まゆみ | 壇 <small>ダン</small> たい | 緩 <small>クワン</small> ゆるやか | 暖 <small>ダン</small> あたたか | 禪 <small>ゼン</small> しづか | 彈 <small>ダン</small> たま | 揣 <small>ス</small> はかる | 喘 <small>ゼン</small> あへぐ | 端 <small>ダン</small> はし | 段 <small>ダン</small> わか | 但 <small>ダン</small> ただ | 且 <small>タン</small> あした | 探 <small>タン</small> さぐる |
| (梅 <small>ウメ</small>) | (花 <small>ハナ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (寒 <small>カン</small>) | (坐 <small>ザ</small>) | (丸 <small>マル</small>) | (摩 <small>マ</small>) | (息 <small>ソク</small>) | (緒 <small>ショ</small>) | (階 <small>カイ</small>) | (書 <small>カキ</small>) | (元 <small>ゲン</small>) | (一檢 <small>イツケン</small>) |
| 擅 <small>セン</small> ほ | 擅 <small>セン</small> ほ | 擅 <small>セン</small> ほ | 暖 <small>ダン</small> あたたか | 彈 <small>タン</small> つ | 湍 <small>タン</small> は | 湍 <small>タン</small> は | 湍 <small>タン</small> は | 湍 <small>タン</small> は | 段 <small>ダン</small> わか | 但 <small>ダン</small> ただ | 且 <small>タン</small> あした | 深 <small>シン</small> ふ |
| (獨 <small>ドク</small>) | (酒 <small>シュ</small>) | (亡 <small>ボウ</small>) | (祥 <small>ショウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) | (急 <small>キウ</small>) |

ち

| | | | | | | | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|
| 桃 <small>タウ</small> も | 桃 <small>タウ</small> も | 凋 <small>テウ</small> し | 悵 <small>チャウ</small> いたむ | 帳 <small>チャウ</small> と | 儲 <small>チヨウ</small> ま | 著 <small>チヨウ</small> あ | 注 <small>チユウ</small> そ | 竺 <small>チク</small> た | 稚 <small>チ</small> な | 知 <small>チ</small> し |
| (花 <small>ハナ</small>) | (輕 <small>ケイ</small>) | (落 <small>ラク</small>) | (然 <small>ゼン</small>) | (簿 <small>ボ</small>) | (君 <small>クン</small>) | (述 <small>ジツ</small>) | (入 <small>ニ</small>) | (天 <small>テン</small>) | (幼 <small>ユウ</small>) | (己 <small>キ</small>) |
| 眺 <small>テウ</small> なが | 挑 <small>テウ</small> い | 彫 <small>テウ</small> ほ | 脹 <small>チャウ</small> ふ | 張 <small>チャウ</small> は | 儲 <small>シヨウ</small> か | 箸 <small>チヨウ</small> は | 註 <small>チユウ</small> し | 笠 <small>カサ</small> か | 雅 <small>ガ</small> み | 智 <small>チ</small> さ |
| (望 <small>ボウ</small>) | (戰 <small>セン</small>) | (刻 <small>コク</small>) | (滿 <small>マン</small>) | (弛 <small>シ</small>) | (火 <small>ヒ</small>) | (釋 <small>シヤク</small>) | (蕘 <small>ミ</small>) | (風 <small>フウ</small>) | (慧 <small>エ</small>) | (慧 <small>エ</small>) |

★ちーつての部

| | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 墮 <small>ダ</small> お | 墮 <small>ダ</small> お | 陳 <small>チン</small> つ | 珍 <small>チン</small> め | 飾 <small>チヨク</small> た | 頃 <small>ケイ</small> こ | 頂 <small>チヤウ</small> い | 微 <small>キ</small> し | 微 <small>キ</small> し | 超 <small>テウ</small> こ | 鈞 <small>キン</small> と | 鈞 <small>キン</small> と | 鈞 <small>キン</small> と |
| (落 <small>ラク</small>) | (落 <small>ラク</small>) | (列 <small>リツ</small>) | (奇 <small>キ</small>) | (戒 <small>カイ</small>) | (日 <small>ジツ</small>) | (上 <small>ジョウ</small>) | (章 <small>ショウ</small>) | (特 <small>トク</small>) | (越 <small>エツ</small>) | (聲 <small>セイ</small>) | (魚 <small>イサ</small>) | (魚 <small>イサ</small>) |
| 墮 <small>ダ</small> お | 墮 <small>ダ</small> お | 陣 <small>ジン</small> い | 診 <small>シン</small> み | 飾 <small>シヨク</small> か | 頃 <small>ケイ</small> こ | 頂 <small>チヤウ</small> い | 微 <small>キ</small> し | 微 <small>キ</small> し | 迢 <small>テウ</small> ほ | 鈞 <small>キン</small> と | 鈞 <small>キン</small> と | 鈞 <small>キン</small> と |
| (落 <small>ラク</small>) | (落 <small>ラク</small>) | (戰 <small>セン</small>) | (察 <small>サツ</small>) | (装 <small>ソウ</small>) | (目 <small>メク</small>) | (菌 <small>キン</small>) | (細 <small>サイ</small>) | (々 <small>テウ</small>) | (一玄 <small>イツケン</small>) | (一玄 <small>イツケン</small>) | (一玄 <small>イツケン</small>) | (一玄 <small>イツケン</small>) |

て

| | | | | | | | | | | | |
|------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 諱 <small>タク</small> つ | 敵 <small>テキ</small> か | 萩 <small>テキ</small> は | 狄 <small>テキ</small> え | 蹄 <small>テイ</small> ひ | 締 <small>テイ</small> む | 堤 <small>テイ</small> つ | 祇 <small>シ</small> つ | 抵 <small>テイ</small> あ | 抵 <small>テイ</small> あ | 抵 <small>テイ</small> あ | 低 <small>テイ</small> ひ |
| (居 <small>キ</small>) | (仇 <small>キウ</small>) | (夷 <small>イ</small>) | (馬 <small>バ</small>) | (結 <small>ケツ</small>) | (防 <small>ボウ</small>) | (候 <small>コウ</small>) | (觸 <small>シヨク</small>) | (抗 <small>カウ</small>) | (抗 <small>カウ</small>) | (抗 <small>カウ</small>) | (高 <small>カウ</small>) |
| 適 <small>テキ</small> か | 萩 <small>テキ</small> は | 秋 <small>シウ</small> あ | 蹄 <small>テイ</small> ひ | 締 <small>テイ</small> む | 堤 <small>テイ</small> つ | 祇 <small>シ</small> つ | 抵 <small>テイ</small> あ | 抵 <small>テイ</small> あ | 抵 <small>テイ</small> あ | 低 <small>テイ</small> ひ | 底 <small>テイ</small> ひ |
| (當 <small>タウ</small>) | (春 <small>シュン</small>) | (真 <small>シン</small>) | (携 <small>ケイ</small>) | (神 <small>シン</small>) | (礪 <small>レキ</small>) | (根 <small>コン</small>) | (徹 <small>テウ</small>) | (徹 <small>テウ</small>) | (徹 <small>テウ</small>) | (徹 <small>テウ</small>) | (徹 <small>テウ</small>) |

| | | | | | | | | |
|------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| ◎擻ぬく タク | ◎濯すすぐ タク | ◎哲あきらか テツ | ◎椽たるき テン | ◎縁えにし エン | ◎傳つたふ テン | ◎黙もだす モク | ◎顛たふる テン | ◎怒いかる ド |
| (一) 拔 | (一) 洗 | (一) 學 | (一) 大 | (一) 因 | (一) 授 | (一) 採 | (一) 沈 | (一) 忍 |
| 擻かひ | 濯すすぐ | 哲あきらか | 椽したやく | 縁みどり | 傳かしく | 黙もだす | 顛いただき | 怒おもひやる |
| (一) 櫓 | (一) 學 | (一) 學 | (一) 郡 | (一) 色 | (一) 師 | (一) 慧 | (一) 山 | (一) 寛 |
| 擻かひ | 濯すすぐ | 哲あきらか | 椽したやく | 縁みどり | 傳かしく | 黙もだす | 顛いただき | 怒おもひやる |

と

| | | | | | | | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-----------|-------------|-------------|------------|------------|
| ◎藤ふち トウ | ◎刀かたな タウ | ◎到いたる タウ | ◎膽うつす トウ | ◎滔みなぎる タウ | ◎陷おちいる カン | ◎桃も タウ | ◎悼いたむ タウ | ◎董たます トウ | ◎讀よむ トク | ◎吞のむ ドン |
| (一) 力 | (一) 原 | (一) 劍 | (一) 著 | (一) 寫 | (一) 落 | (一) 李 | (一) 哀 | (一) 骨 | (一) 書 | (一) 吐 |
| 藤とつる | 刀やいば | 致いたす | 騰あがる | 焰ほのほ | 挑いとむ | 棹さを | 董すみれ | 續つぐ | 客をむ | 客をむ |
| (一) 力 | (一) 原 | (一) 著 | (一) 寫 | (一) 落 | (一) 李 | (一) 哀 | (一) 骨 | (一) 書 | (一) 吐 | (一) 齋 |

ね

| | | | |
|------------|-------|------|-------|
| ◎燃もゆ ネン | (一) 燒 | 燃ひれる | (一) 紙 |
|------------|-------|------|-------|

の

| | | | |
|-------------|-------|------|-------|
| ◎腦あたま ナウ | (一) 髓 | 惱なやむ | (一) 煩 |
| ◎納をさむ ナフ | (一) 奉 | 訥どもる | (一) 辯 |

| | | | |
|--------------|-------|------|-------|
| ◎衲ころも ナフ | (一) 老 | 儂われ | |
| ◎濃こまやか ノウ | (一) 淡 | 裏たすく | (一) 贊 |

| | | | |
|-------------|-------|--|--|
| ◎囊ふくろ ナウ | (一) 財 | | |
|-------------|-------|--|--|

は

★とねのはの部

| | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------|------------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|------------|--------------|------------|------------|-------------|
| ◎派わかれ ハ | ◎俳わざなぎ ハイ | ◎排おす ハイ | ◎輩やから ハイ | ◎廢すたる ハイ | ◎倍ます バイ | ◎陪ともなふ バイ | ◎敗やぶる ハイ | ◎椈うめ バイ | ◎媒なかだち バイ | ◎伯をぢ ハク | ◎拍うつ ハク | ◎薄うすし ハク |
| (一) 遣 | (一) 優 | (一) 斥 | (一) 先 | (一) 止 | (一) 加 | (一) 臣 | (一) 失 | (一) 酌 | (一) 酌 | (一) 父 | (一) 手 | (一) 厚 |
| 派すぢ | 俳さまよふ | 排せしる | 輩くるま | 廢すたれやまひ | 培つちかふ | 販ひさぐ | 煤すすす | 泊とまり | 柏かしは | 簿ちやうめん | | |
| (一) 遣 | (一) 優 | (一) 斥 | (一) 先 | (一) 止 | (一) 加 | (一) 臣 | (一) 失 | (一) 酌 | (一) 酌 | (一) 父 | (一) 手 | (一) 厚 |

◎飯めし (飯) (麥) 飲のむ (食)
 ◎般めぐる (若) 搬はこぶ (運)
 ◎盤さら (水) 磐いは (石)
 槃たのしむ (涅) (一) (石)

ひ

◎彼かれ (我) 波なみ (濤)
 ◎坡つつみ (東) 披ひらく (露)
 ◎破やぶる (壞) 被かうむる (害)
 ◎婢はしため (奴) 碑いしぶみ (石)
 ◎牌ふだ (招) 稗ひえ (史)
 ◎批うつ (評) 秕しひな (政)
 ◎緋あか (緘) 誹てしる (謗)

◎靡なびく (風) 糜たたる (爛)
 ◎磨きしまれく (下) 粥かゆ (豆)
 ◎弼たすく (補) 秤ばかり (天)
 ◎評はかる (議) 漂ただよふ (流)
 ◎標しるし (商) 刺ぬすむ (竊)
 ◎苗なへ (代) 笛ふえ (汽)
 ◎描ながく (寫) 猫れこ (犬)
 ◎秒こまかし (分) 抄とる (録)
 ◎妙たへ (巧) 紗すな (白)
 ◎紗うすぎぬ (更) 紗とる (抄に通ず)
 ◎貧まづし (富) 貪むさぼる (慾)

ふ

◎普あまれく (通) 晉すすむ (國)
 ◎福さいはひ (幸) 幅はば (員)
 ◎幅くるまのや (輦) 復かきぬ (雜)
 ◎復また (習) 復もとる (剛)
 ◎腹ぼら (痛) 復さもにたり (衍)
 ◎佛ほとけ (神) 拂ぼらふ (拭)
 ◎沸わく (騰) 拂よそほふ (装)
 ◎粉 (末) 紛まざる (亂)
 ◎噴ふく (火) 憤いきどほる (怒)
 ◎憤 (怒)

へ

◎蚊か (帳) 蛟みづち (龍)
 ◎奮ふるふ (發) 奪うばふ (與)
 ◎舊ふるし (新) 弊やぶる (害)
 ◎弊たふる (死) 蔽おほふ (遮)
 ◎陸きざはし (下) 陸のぼる (敝)
 ◎陸 (海) 陸 (一) (敝)
 ◎閉とつ (開) 閑しづか (暇)
 ◎袂たもと (連) 訣わかる (別)
 ◎決きむ (定) 快ころよし (愉)
 ◎辟ひらく (易) 僻かたよる (邊)

◎妙メウたへ (巧カウ一) 秒ベウこまかし (分フン一)
◎眠ミンねむる (睡スイ一) 眼ガンまなこ (鏡キョウ一)

め

◎明メイあきらか (白ハク一) 朋ホウとも (友ユウ一)
◎鳴メイなく (鶏ケイ一) 鳴メイあ (呼コウ一)
◎滅メツほろぶ (亡バウ一) 滅メツへる (少セウ一)
◎免メンゆるす (許キョ一) 免メンうさぎ (脱ダツ一)

も

◎模モのり (範ハン一) 摸モさぐる (索サク一)
◎盲マウめくら (目メク一) 盲マウむなさき (膏カウ一)
◎孟マウばじめ (春シュン一) 孟マウわん (飯ハン一)

よ

◎與ヨあたふ (奪ダツ一) 興コウおこく (起キ一)
◎輿ヨこし (車シャ一) 洋ヤウうみ (大ダイ一)
◎伴ヤウいつはる (狂キヤウ一) 洋ヤウ (大ダイ一)
◎詳シヤウつまびらか (細サイ一) 楊ヤウやなぎ (柳リウ一)
◎揚ヤウあぐ (發ハツ一) 楊ヤウ (柳リウ一)
◎掲ケイかかぐ (示シ一) 陽ヤウひ (太タイ一)
◎備ヨウひとがた (作サク一) 涌ヨウわく (盆ヘン一)
◎桶ヨウをけ (手テ一) 蛹ヨウさなぎ (蟲チュウ一)
◎踊ヨウをどる (舞マイ一) 踊ヨウ (蟲チュウ一)
◎容ヨウかたち (貌ボウ一) 客カクまらうど (旅リョ一)
◎搖エウゆスグ (動ドウ一) 謠エウうた (歌カ一)

★めーもーやーゆーよーらの部

◎網マウあみ (羅ラ一) 網カウつな (領リョウ一)
◎紋モンあや (波ハ一) 絞カウくくる (刑ケイ一)

や

◎厄ヤクわざはひ (災サイ一) 危キあやふし (險ケン一)

ゆ

◎諭ユさとす (訓クン一) 諭ユたとふ (譬ヘイ一)
◎輸ユおくる (送ソウ一) 踰ユこゆ (越エツ一)
◎偷トウぬすむ (安アン一) 鑰チユウ (真シン一)
◎輿ユしぼらく (須シュ一) 叟ソウおきな (老ラウ一)
◎遊イウあそぶ (戲キ一) 游イウおよぐ (泳エイ一)

◎瑤エウたま (林リン一) 遙エウほるか (道ダウ一)
◎幼エウをさなし (少セウ一) 幻ゲンまぼろし (夢ム一)

◎拗エウれらく (音オン一) 窈エウふかし (窈エウ一)

◎杳エウほるか (冥メイ一) 香カウにほひ (氣キ一)

◎抑ヨクおさふ (制セイ一) 仰ギヤウあふぐ (俯フ一)

ら

◎雷ライかみなり (鳴メイ一) 電デンいなづま (光クワウ一)
◎洛ラクみやこ (陽ヤウ一) 絡ラクつづく (連レン一)
◎駱ラクらくだ (駝ダ一) 輅ラクくるま (車シャ一)
◎辣ラクからし (腕ワン一) 辣シヨウおそろ (然ゼン一)

★日用文字便覧

◎藍あゐ (一色) 籃かご (一揺) 溢みだりに (一費) 檻をり (一倉) 檻つづれ (一樓) 蘭らん (一麿) 辯やま (一峰) 蠻えびす (一野) 樂まどか (一團)

り

◎罹かかる (一災) 羅つらなる (一森) 離はなる (一別) 羅かき (一竹) 陸くが (一海) 睦むつまし (一親) 掠かすむ (一奪) 掠むくのき (一鳥) 諒まこと (一察)

◎料ばかる (一理) 科とが (一罪) 僚とも (一同) 潦にはたづみ (一水) 療みだる (一亂) 療やく (一原) 瞭あきらか (一明) 療まこと (一榮) 遼ほるか (一遠) 寮こいへ (一茶) 療いやす (一治) 寥さびし (一寂) 臘まつりの名 (一月) 獵かり (一狩) 臘 (一蟲) 倫たぐひ (一絶) 論あげつらふ (一議) 綸いと (一經) 輪わ (一車) 隣となり (一近) 隣あはれむ (一憫) 隣おにび (一火)

★りれろわの部

(二三四)

◎溜たまる (一池) 溜うま (一華) 流ながる (一河) 疏わわ (一黄) 笠かさ (一蓑) 慮おもんはかる (一遠) 虜とりこ (一捕) 輻のる (一車) 涼すずし (一清) 諒まこと (一察) 凌しのぐ (一雲) 棟 (一棟) 綾あや (一角) 陵みささぎ (一山) 梁おほあは (一肉) 廬あしに通ず (一胡) 竈すだま (一魁) 掠かすむ (一奪) 廻るり (一球) 韶むす (一乾)

れ

◎豊おほ (一富) 例ためし (一外) 冽さむし (一清) 烈ほげし (一風) 裂さく (一破) 隸しもべ (一奴) 穎ほさき (一敏) 礫こいし (一沙) 曆こよみ (一死) 歴ふ (一史) 曆 (一本) 練れる (一習) 鍊たきふ (一鍛) 諫いさむ (一直) 蓮はちす (一華) 連つらなる (一結)

ろ

| | | |
|--|---------------------------|-------------------------|
| ○慮 <small>ロ</small> あしに通ず(胡 <small>コ</small>) | 慮 <small>ロ</small> おもんはかる | (遠 <small>エン</small>) |
| 慮 <small>ロ</small> いほり | 慮 <small>ロ</small> あし | (一荻 <small>テキ</small>) |
| ○濾 <small>ロ</small> こす | 瀘 <small>ロ</small> 川の名 | |
| 爐 <small>ロ</small> あろり | | |
| ○耶 <small>ラウ</small> なとこ | 朗 <small>ラウ</small> ほがらか | (晴 <small>セイ</small>) |
| ○浪 <small>ラウ</small> なみ | 狼 <small>ラウ</small> おほかみ | (一藉 <small>ゼキ</small>) |
| ○老 <small>ラウ</small> おゆ | 考 <small>カウ</small> かんがふ | (思 <small>シ</small>) |
| ○樓 <small>ロウ</small> やぐら | 樓 <small>ロウ</small> つづれ | (一盞 <small>サン</small>) |
| ○祿 <small>ロク</small> さいはひ | 碌 <small>ロク</small> ちひささま | (一々 <small>クク</small>) |
| 緑 <small>リョク</small> みどり | 縁 <small>エン</small> えにし | (一因 <small>イン</small>) |
| 録 <small>ロク</small> しるす | | (目 <small>モク</small>) |

わ

| | | | |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| ○腕 <small>ワ</small> わん | (膳 <small>ゼン</small>) | 腕 <small>ワ</small> うで | (一力 <small>リキ</small>) |
| 鏡 <small>ケン</small> かなまり | | | |
| ○彎 <small>ワ</small> まがる | (一曲 <small>キキョク</small>) | 灣 <small>ワ</small> いりえ | (一港 <small>カウ</small>) |

國語假名遣便覽

一 いぬひの區別

いとゐとひとは、頗る紛れ易いが、ひは語の中下に在る時、いとと紛れ易い。

ゐ 語の上に在るもの

- ゐ(牛) ゐ(猪) ゐ(居) ゐ(蘭) ゐど(井)
- 戸) ゐづつ(井筒) ゐげた(井桁) ゐのこ
- (豕) ゐのしし(猪) ゐや(禮) ゐざり(膝行) ゐなか(田舎) ゐもり(蟻) ゐろり
- (圍爐裏)

語の中に在るもの

★いぬひの區別

まゐる(參) ひきゐる(率) すゐき(芋苗) 語の下に在るもの

- あゐ(藍) なる(地震) いぬゐ(乾) うな
- ゐ(幼童) かたゐ(乞食) くらゐ(位) く
- わゐ(慈姑) とのゐ(宿直) もとゐ(基)
- かもゐ(鴨居) しきゐ(敷居) とりゐ(鳥居) くれなる(紅) あぢさゐ(紫陽花)

い 語の上に在るもの

ゐの部に擧げた語の外は、大抵いと心得てよい。

- 語の中に在るもの
- あいつ(彼奴) おいて(於) ついで(序)
- はいと(隼人) ひいき(最良) ひいづ(秀)

うたひ(謠) うぐひす(鶯)等、の如く大抵
ひと心得てよい。

二 うふの區別

うとふとは、語の上に在る時は紛れるこ
とがないが、語の中下に在る時紛れ易い。

語の中にあるもの

- あきうど(商人) いもうと(妹) おとうと
- (弟) かうし(格子) かうべ(首) かうべ
- (神戸) かうつけ(上野) かうむる(被)
- かうもり(蝙蝠) かうばし(馨) かうがい
- (筭) こうち(小路) こうや(紺屋) たう
- げ(峠) てうづ(手水) なうし(直衣) は

- かい(權) おい(老) くい(悔) むくい
- (報) うまい(熟睡) だいたい(橙) おし
- ろい(白粉)

以上の外きしの音便は皆いである。

ひ 語の中下に在つて、いゝの外いと發
音するもの、例へば、たひ(鯛) かひ(貝)

- うき(幣) ひうが(日向) まうす(申) ま
- うで(詣) まうけ(設) まらうど(賓客)
- やうか(八日) やうやく(漸)
- 語の下に在るもの

- すう(据) うう(植) うう(飢)
- ふ うの部に擧げたものの外は、きのふ(昨
- 日) けふ(今日) かぞふる(數) そふる
- (添) 等の如く、大抵ふと心得てよい。

三 ゑえへの區別

ゑとえとは、常に紛れ易く、へは語の中
下に在る時、ゑえと紛れ易い。

語の上に在るもの

★うふの區別、ゑえへの區別

- ゑ(繪) ゑ(餌) ゑかく(晝) ゑかき(晝
- 工) ゑのぐ(繪具) ゑま(繪馬) ゑさ(餌)
- ゑぶくろ(餌袋) ゑた(穢多) ゑふ(醉)
- ゑむ(咲) ゑくぼ(罍) ゑる(彫) ゑぐる
- (刳) ゑぼし(烏帽子) ゑぐし(酸) ゑん
- じゆ(槐) ゑかう(回向) ゑじ(衛士)
- 語の中に在るもの

- うゑき(植木) うゑじに(餓死) すゑもの
- (陶器) すゑふる(据風呂) すゑひろ(末
- 廣) ゆゑん(所以)
- 語の下に在るもの

- こゑ(聲) すゑ(末) つゑ(杖) ゆゑ(故)
- うゑ(飢) こすゑ(梢) つくゑ(机) とも

る(巴) いしずる(礎)

え 語の上に在るもの

るの部に擧げた語の外は、えだ(枝)え

び(海老) えびら(箆) えらぶ(選)等、大抵

えと心得てよい。

語の中に在るもの

あかえ(弱) もえぎ(萌黃) ひえどり(鶺鴒)

語の下に在るもの

あまえ(甘) いえ(癒) いらえ(入江) お

びえ(魘) おぼえ(覺) きえ(消) きこえ

(聞) きのえ(甲) こえ(越) こえ(肥) こ

ごえ(凍) こころえ(心得) さえ(冴) さ

かえ(榮) ささえ(酒筒) さざえ(榮螺)

をとおとは、語の上に在つて紛れ易く、
をとほとふとは、語の中下に在つて紛れ易
い。おは語の中下には用ひない。
を 語の上に在るもの

を(男) を(緒) を(苧) を(尾) を(小)

をか(岡) をぎ(萩) をけ(桶) をこ(愚

痴) をさ(長) をさ(箴) をし(鴛鴦) を

し(惜) をそ(癩) をち(遠) をぢ(伯叔

父) をば(伯叔母) をの(斧) をひ(甥)

をり(檻) をり(折) をる(居) をかし(可

笑) をかす(犯) をがむ(拜) をごる(奢)

をさむ(治) をしき(折數) をしへ(教)

をつと(夫) をとめ(少女) をとり(媒鳥)

★をおほふの區別

すえ(饒) すはえ(氣條) そびえ(聳) し
づえ(下枝) たえ(絶) つひえ(費) つひ
え(貴) なえ(萎) ながえ(轆) にえ(煮)
ぬえ(鵠) はえ(生) はえ(映) ひえ(稗)
ひえ(冷) ふえ(笛) ふえ(殖) ほえ(吼)
みえ(外見) もえ(萌) もえ(燃) ゆふば
え(夕映) ひこばえ(藪)

へ 以上の外、語の中下に在つてえと發音
するもの、例へば、いへ(家) かへる(蛙)
あへて(敢) あへぐ(喘) 等大抵へと心得
てよい。

四 をおほふの區別

をどり(踊) をのへ(尾上) をはり(終)
をみな(女) をろち(大蛇) をさなし(幼)
をさをさ(大抵) をととひ(一昨日) をの
のく(戰慄) をつとせい(臘胸獸) をどし
(絨) をみなへし(女郎花) をしやう(和
尙)

語の中に在るもの

かをる(薰) しをり(栞) しをる(萎) ま

をす(申) めをと(夫婦) やをら(徐々)

たをやか(嬋妍) わざをぎ(俳優) ひをむ

し(誘) さるをがせ(松蘿) みをつくし

(潑標)

語の下に在るもの

あを(青) うを(魚) さを(竿) みを(澄) とを(十) いさを(功) ばせを(芭蕉) みを(操) かつを(鯉) ますらを(大丈夫) 以上の外、語の上に在つておと發音するもの、例へば、おや(親) おに(鬼) おどろく(驚) おそし(遅) をこたる(怠) 等の如く大抵おである。

は 語の中下に在つておと發音するものの中、上に擧げたを、次に擧げるふの外は、大抵ほと心得てよい。

ふ あふぎ(扇) あふぐ(仰) あふむく(仰向) あふひ(葵) あふみ(近江) あふる(煽) あふし(啞) あふせ(仰) さふらふ

やか(嬋妍) のわき(野分) はらわた(腸) よわし(弱)

語の下に在るもの

あわ(泡) しわ(皺) ひわ(鴉) くるわ(廓) くつわ(轡) うらわ(浦曲) はにわ(埴輪)

は わの部に擧げた語の外は、かは(川) あは(粟) にはとり(鶏) かはら(瓦) 等の如く大抵ほと心得てよい。

六 ぢじの區別

ぢとじとは、語の上中下を問はず、甚だ紛れ易い。

★わはの區別、ぢじの區別

(候) たふとし(貴) たふる(倒)

五 わはの區別

わとはとは、語の中下に在るとき、極めて紛れ易い。

わ 語の中に在るもの

あわつ(周章) あわただし(惶遽) いわし(鯛) うわる(植) かわく(乾) くわる(慈姑) こわいろ(聲色) こわね(聲音) ことわり(理) ことわざ(諺) さわぐ(騒) さわやか(爽) しわざ(仕業) しわる(撓) しわし(吝) すわる(坐) たわむ(撓) たわいなし(無思慮) たわし(東葉子) たわ

ぢ 語の上に在るもの

ぢ(痔) ぢ(地) ぢぢ(老翁) ぢぢ(祖父) ぢき(直) ぢみ(地味) ぢく(舳) ぢぢむ(振) さし(不潔)

語の中に在るもの。

あぢさる(紫陽花) いぢらし(愍然) いぢる(弄) くぢら(鯨) ぢぢむ(縮) ねぢる(振)

語の下に在るもの

あぢ(味) あぢ(鱈) うち(氏) かつ(梶) かつ(舵) かつ(鍛冶) すぢ(筋) ひぢ(臂) ふぢ(藤) ねぢ(螺旋) をぢ(伯叔父) はぢ(恥) おほぢ(祖父) こうぢ(小路)

かうち(糍) なんち(汝) みそち(三十)
もみち(紅葉) わらち(草鞋) なめくち
(蛞蝓)

じ ぢの部に擧げた語の外は、さじ(匙)
きじ(雉) あるじ(主人) はじめ(初) み
じかし(短)等、大抵じと心得てよい。

七 ずづの區別

ずとづとは、語の上中下を問はず、これ
亦甚だ紛れ易い。

ず 語の上に在るもの
ず(不) ずる(蕊) ずるき(芋苗) ずはえ
(條) ずぶずぶと(水に入る音) ずぶりと

づ ずの部に擧げた語の外は、みづ(水)い
づみ(泉) わづらふ(煩) まづし(貧)等、
大抵づと心得てよい。

(同上) ずるし(横著) ずるずる(滑る状)
語の中に在るもの

いしずる(礎) かるはずみ(輕佻) こずる
(梢) すすき(驢) すすし(涼) すすし(生
絹) すすしろ(蘿蔔) すすな(菘) すすめ
(雀) すすり(硯) すすろ(漫) たたずむ
(竹) なすらふ(準) ねずみ(鼠) はずみ
(機) ひずむ(歪)
語の下に在るもの
かす(數) きず(疵) くず(葛) すす(鈴)
すす(錫) はず(筈) もす(百舌鳥) ゆず
(柚) あんず(杏) おかす(副食物) みみ
ず(蚯蚓) じゆず(珠數) かならず(必)

字音假名遣便覽

イと發音するもの

- 【ゐ】 位爲威彙畏遺 胃(渭蛸謂) 委(萎透) 唯(帷惟維) 尉(慰蔚) 韋(偉葦緯違圍圍)
 - 【ゐき】 域(闕械)
 - 【ゐん】 允院尹筠 員(殞隕韻)
- 以上の外は大抵(い)である。但しス・ツ・ユ・ルの音の下に在つて(い)と發音するものは皆(ゐ)である。例、水(する) 追(つる) 遺(ゆる) 類(るる)の如し。

エと發音するもの

- 【ゑ】 惠慧穢衛潰淮畫壞隈 回(廻) 會(繪)
 - 【ゑい】 衛
 - 【ゑつ】 曰粵越(樾鉞)
 - 【ゑん】 圓垣冤 袁(猿猿遠園) 苑(宛怨鴛 婉婉腕) 爰(媛媛媛媛)
- 以上の外は大抵(え)である。
- #### オと發音するもの
- 【を】 乎汙汚遠惡 烏(鳴)
 - 【をく】 屋
 - 【をつ】 越臘

【をん】 穩園(遠) 溫(愠蘊) 苑(怨苑)

以上の外は大抵(お)である。

オーと發音するもの

- 【あう】 鶯媪 奧(襖) 櫻(鸚鵡嬰) 央(殃鞅 鴛盎)
- 【あふ】 凹壓 押(鴨狎)
- 【おう】 應(鷹) 嘔(謳謳謳歐歐鷗)
- 【をう】 翁(翁) 瓮(甕)
- 【おふ】 邑(悒)
- 【わう】 皇(凰) 黃(橫) 王(旺汪枉庭) 往

カと發音するもの

☆イ、エオ、オーカと發音するもの

【くわ】 火戈瓜寡化(花訛貨靴) 華(嘩諱)

禾(和科蝌) 果(菓窠課顆夥) 夸(誇) 過(禍蝸窩)

【くわい】 快怪潰乖穢 懷(壞) 灰(恢詼)

悔(誨悔) 回(廻徊蛔) 會(檜繪繪繪繪) 塊(傀塊塊塊魁)

【くわく】 馘擴畫(劃) 郭(廓) 霍(藿獲穫)

蝮(蝮攫攫)

【くわつ】 豁滑(猾) 活(括刮闊)

【くわん】 冠卷寬桓患關盪款緩鰥 完(莞)

貫(慣) 官(菅管棺館宦) 喚(渙煥換) 還(環寰園) 灌(懽灌罐罐觀觀)

以上の外は大抵(か)である。

ガと發音するもの

【ごわ】 瓦臥畫

【ごわい】 外

【ごわつ】 月

【ごわん】 願丸(統) 元(玩頑翫)

以上の外は大抵(が)である。

キユーと發音するもの

【きう】 休朽廐 丘(蚯) 糾(蚪) 臼(舅舊)

九(仇鳩究) 久(灸咎柁) 求(裘毬球救)

【きゆう】 宮弓(躬窮)

【きふ】 泣給忿翁(噲歛) 及(汲吸級笈)

(きゆう)は(きう)と書いても好い。

ギョーと發音するもの

【ぎう】 牛

キョーと發音するもの

【きやう】 杏香梗餉姜慶驚匡(狂) 强(纏)

疆(疆) 莖(經) 兄(況競) 竟(境鏡) 京

(亨享) 仰(仰卿) 郷(饗響)

【きよう】 興兢矜邛 共(供拱恭葢) 恐(蚤

登) 凶(兇恟胸)

【けう】 叫梟肴馨 孝(教) 交(校校咬咬)

竅(激激) 喬(僑橋嬌矯驕驕驕驕)

【けふ】 叶劫(怯) 協(脅協脇) 夾(挾俠狹

夾挾狹篋頰)

ギョーと發音するもの

【ぎやう】 仰形行刑

【ぎよう】 凝囑

【げう】 堯(曉翹驍) 狡

【げふ】 業

コーと發音するもの

【こう】 厚後興弘肱肯寇薨 公(蚣) 空(控)

亘(恒) 孔(吼) 洪(哄閏) 口(扣卸叩) 苟

(响鉤) 后(垢逅) 構(溝構媾購籌邁) (講

★ガ、キユー、ギョー、キョー、キョー、コー、ゴーと發音するもの

(きゆう)は(きう)と書いても好い。

ギョーと發音するもの

【ぎう】 牛

キョーと發音するもの

【きやう】 杏香梗餉姜慶驚匡(狂) 强(纏)

疆(疆) 莖(經) 兄(況競) 竟(境鏡) 京

(亨享) 仰(仰卿) 郷(饗響)

【きよう】 興兢矜邛 共(供拱恭葢) 恐(蚤

登) 凶(兇恟胸)

【けう】 叫梟肴馨 孝(教) 交(校校咬咬)

竅(激激) 喬(僑橋嬌矯驕驕驕驕)

はカウ) 侯(候喉猴) 工(功攻紅虹貢鴻

訃) (巧江はカウ)

【かふ】 盍(闕) 夾(峽) 甲(岬狎匣) 合(洽

恰閤蛤洽)

【くわう】 荒(慌) 絃(宏閏) 光(恍晃幌

胱) 廣(鑛礦擴曠擴) 黃(橫實償) 皇(惶

惶惶惶惶惶)

以上の外は大抵(かう)である。

コーと發音するもの

【がふ】 合

【ごふ】 業劫(怯)

【ごわう】 轟

以上の外は大抵(がう)である。

ジと發音するもの

- 【じ】 二次貳而兒自事字似氏辭 示(視) 耳
(餌) 寺(侍侍時) 爾(璽) 茲(滋慈孳)
- 【ぢ】 治地除 尼(怩) 持(痔時)
- 【じき】 食
- 【ぢき】 直
- 【ぢく】 竺(軻) 軸(軸)
- 【じつ】 日實
- 【ぢつ】 曜呢秩
- 【じん】 人仁千荏神腎 刃(刃忍) 甚(糞)
尋(溲尋) 盡(儘蓋) 迅(訊)

シユーと發音するもの

- 【しゅう】 終宗衆主蠹
 - 【しふ】 拾集執襲澁 濕(隰) 習(摺摺摺)
茸(緝輯楫)
- 以上の外は大抵(しう)である。又(しゆう)は(しう)と書いてもよい。

ジューと發音するもの

- 【じう】 獸柔(蹂)
- 【じゆう】 充(銃) 戎(絨) 從(縱蹤)
- 【じふ】 拾人十(什汁)
- 【ぢゆう】 重住頭

★シシユー、シユー、シヨ、シヨ、シヨと發音するもの

【ぢん】 陣沈塵

【じや】 蛇邪麝闍

【じやく】 雀寂籍 若(惹) 昔(惜) 弱(弱)

溺孀(石拓)

【ぢやく】 著

【じよ】 徐(敍) 序(舒) 如(恕汝) 助(鋤耨)

【ぢよ】 女(絮) 杼除

【じよく】 辱(辱辱)

【ぢよく】 匿(慝)

【じゆつ】 戌述(術) 恤(恤郵)

【ぢゆつ】 朮(怵)

以上の外(じゆ) (じゆく) (じゆん) の
假名は總て(ジ)である。

(じゆう) (ぢゆう) は(じう) (ぢう) と
書いてもよい。

シヨと發音するもの

- 【じよう】 承鐘證勝誦稱 棟(棟) 升(昇陞)
松(訟頌鬆) 衝(腫腫鍾踵) 從(蹤縱聳縱)
 - 【せう】 笑燒椒 肅(蕭嘯瀟) 焦(蕉樵樵礁)
嚙(召) 招招昭照韶韶 小(少抄鈔宵宵)
管霄消哨梢稍蛸銷硝鞘(省はシャウ)
 - (せふ) 摺葉涉懾 捷(蹶蹶) 妾(接婭)
- 以上の外は大抵(しやう)である。

ジョと發音するもの

【じやう】 上淨情嘗常(嫦)狀(牀)成(城) 襄(攘讓)

【じよう】 宄繩茸仍乘(剩)丞(拯丞蒸)

【ぜう】 擾饒(繞遶)

【ぜふ】 接

【ぢやう】 場貞娘孃(釀)定(錠)丈(仗杖)

【ぢよう】 稔(醱)

【でふ】 條尿溺(溺)

【でふ】 帖捻疊

ズと發音するもの

【づ】 途徒圖杜都 豆(頭逗)

【ずる】 蕊穗綏(痿)瑞(備)隋(隨髓)

ソーと發音するもの

【そう】 走送族宋敷叢(叢)嗽(漱)櫻(櫻)

艘(宗)崇綜踪 奏(輦奏) 忽(惚忽) 恩

(總惚聰蔥憲) 曾(增僧憎贈厨) 叟(搜)

(嫂艘はサウ)

【さふ】 颯挿匣卅

以上の外は大抵(さう)である。

ゾーと發音するもの

【ぞう】 造倉象(像)藏(臟)

【ぞう】 曾(憎增贈贈)

【ざふ】 插雜

チユーと發音するもの

【ちゆう】 頭偷虫(蟲)誅(蛛)廚(躄)注

(柱註駐) 中(仲冲仲忠衷)

【ちふ】 螿

以上の外は大抵(ちう)である。又(ち

ゆう)は(ちう)と書いてもよい。

チョーと發音するもの

【ちやう】 停提挺鬻鄭 腸(暢)聽(廳)丁

(町頂) 長(帳帳脹漲漲)

【ちよう】 澄寵重(踵)冢(塚)徵(徵懲)

【てう】 弔超釣肇勻耀 烏(蕉)迢(超貂貂)

★ズ、ソー、ゾー、チユー、チョー、トー、ドーと發音するもの

髻) 調(凋)蜩彫鵠鯛育) 兆(挑佻眺跳跳) 晁窈(朝)潮嘲)

【てふ】 輒帖(貼笈)蝶(喋喋喋喋)

トーと發音するもの

【とう】 投統董偷等透兜桶讀(資)冬(疼)

筒(桐)東(凍棟)膝(膝膝膝膝) 豆(頭

逗鬪登燈磴磴) (橙はタウ)

【たふ】 沓(踏)納(納)榻(榻榻)答(搭劑)

以上の外は大抵(たう)である。

ドーと發音するもの

【たう】 道(導)堂(棠墻)

【ごう】 動(働働) 同(洞桐桐銅) 童(僮撞撞撞)

ニユーと發音するもの

- 【にう】 柔
- 【にゆう】 乳
- 【にふ】 入

(にゆう)は(にう)と書いてもよい。

ニョーと發音するもの

- 【にやう】 娘嬢
- 【によう】 女
- 【ねう】 尿溺繞(遶繞繞)

【ねふ】 捻

ノーと發音するもの

- 【なう】 囊腦(惱瑙) (納納はナフ)
- 【のう】 能農(儂濃膿)

ヒョーと發音するもの

- 【ひやう】 兵弁平(評)
- 【ひよう】 凭氷(冰) 馮(憑)
- 【へう】 雹飈豹(杓) 表(俵) 票(漂標標標 剽瓢飄)

ビョーと發音するもの

【びやう】 病屏鉞

【びよう】 憑

【べう】 廟秒(眇渺) 苗(描猫貓)

ホーと發音するもの

【ほう】 仆豐鳳封(幫) 奉(俸捧) 剖(部部)

措菩) 朋(崩縑礪鵬) 峰(烽蜂鋒逢縫蓬)

【はふ】 法乏(漢音)

【ほふ】 法乏(吳音)

以上の外は大抵(はう)である。

ポーと發音するもの

【ぽう】 剖棒夢 某(謀) 牟(鉞眸) 矛(袤)

★ニョー、ノー、ヒョー、ビョー、ホー、ヒョー、ミョー、モーと發音するもの

(芽はバウ)

【ばふ】 乏(漢音)

【ほふ】 法乏(吳音)

以上の外は大抵(ばう)である。

ミョーと發音するもの

【みやう】 命明冥名(茗)

【めう】 妙苗(貓)

モーと發音するもの

【まう】 莽毛(耄) 孟(猛) 亡(妄盲罔網望)

【もう】 蒙(濛朦矇)

ユーと發音するもの

【いふ】 揖 邑(挹 悒)

【ゆう】 勇 雄 熊 裕 融 邕

以上の外は大抵(い)うである。

ヨーと發音するもの

【やう】 陽(揚 楊 場 瘍 颺) 羊(佯 洋 痒 恙 漾 樣)

養)影

【よう】 孕 腰 邕(癰) 雍(擁) 膺(鷹) 容(溶)

蓉) 庸(傭) 庸(イウ) 用(甬 俑 桶 踊) 蠅

【えう】 杳 姚 要(腰) 曜(耀 耀) 夭(沃 妖 妖)

么(幼 拗 窃) 遙(搖 搖 遙 謠 謠)

【えふ】 葉 厭(壓) 曄(燁)

リユーと發音するもの

【りう】 柳(劉) 流(硫 琉 流) 留(溜 溜 留 雷)

【りゆう】 隆 龍

【りふ】 立(笠 粒)

(りゆう)は(りう)と書いてもよい。

リヨーと發音するもの

【りやう】 良 靈 亮(曉) 量(糧) 梁(梁) 涼

(掠 諒) 兩(輛 輛) 令(領 苓 苓)

【りよう】 龍 楞 凌(菱 稜 陵 綾)

【れう】 了 料 聊 寥(藜) 僚 遼 潦 僚 瞭 寮 療

僚 僚)

【れふ】 獵(鬣)

ローと發音するもの

【らう】 老 勞 牢 醪 潦 郎(朗 粮 浪 廊 榔)

【ろう】 弄 陋 漏 隴(瓏 籠 聾 隴 壟) 樓(樓 樓)

鏤 縷 饌 樓)

【らふ】 拉 薦 臘(蠟)

以上列記以外の文字の字音假名遣は、大抵字形の類似によりて、同じ假名遣と認めず。差支なし。

★ユー、ヨウ、リユー、リヨー、ローと發音するもの

送假名便覽

送假名の四綱領

- 一 活用語の語尾變化をかきあらはすこと。
- 二 語の末に附屬する助詞、助動詞をかきあらはすこと。
- 三 語の末に含まるる接尾語をかきあらはすこと。
- 四 漢字を音讀せるものは漢字以外をかきあらはすこと。

ア

| | |
|--------|-------------|
| アカラム | 赤ラム |
| アガル | 上ル |
| アキタラズ | 慊ラズ |
| アキラカニ | 明ラカニ |
| アキラカニス | 明ラカニス(昭カニス) |
| アキラケシ | 明ラケシ |
| アキラム | 明ラム |
| アザラケシ | 鮮ケシ |
| アタタケシ | 暖ケシ |
| アダメク | 艶メク |
| アヂハフ | 味ハフ |

アツク(ウ)ス 厚クス 篤クス 熱クス

アハス 合ハス(併ス 協ス)

アハセテ 合ハセテ(併セテ)

アブラコシ 油コシ

アヘテ 敢ヘテ(肯テ)

アマク(ウ)ス 甘クス

アマネク(ウ)ス 普クス 遍クス 洽クス

アマヤカス 甘ヤカス

アマリニ 餘リニ

アマンズ 甘ンズ

アメフル 雨フル

アヤシム 怪シム(異ム)

アラハス 現ス

アラハル 現ル

アラマホシ 有ラマホシ

アルヒハ 或ハ

イ

イカガハシ 如何ハシ

イカデカ 争デカ

イカラス 怒ラス

イササカ 聊カ

イサマシ 勇マシ

インガシ 急ガシ(忙シ)

イタハシ 痛ハシ

イタマシ 痛マシ 傷マシ 悼マシ

★送假名法の四綱領—ア—イの部

イヅクニゾ 鳥ニゾ 悪ニゾ 焉ニゾ
 安ニゾ 曷ニゾ 何ニゾ
 イヅクンゾ 鳥ンゾ 悪ンゾ 焉ンゾ
 安ンゾ 曷ンゾ 何ンゾ
 イトハシ 厭ハシ
 イハク 云ハク 言ハク (曰ク)
 イハンヤ 況ヤ
 イヘドモ 雖モ
 イマダシ 未ダシ
 イマハシ 忌マハシ
 イマメカシ 今メカシ
 イマメク 今メク
 イヤシム 賤シム 鄙シム 卑シム

イラダツ
 イロヅク
 イロドル
 イロメク

ウ

ウカブ 浮カブ (泛ブ)
 ウゴカス 動カス 搖カス
 ウシロメタシ 後メタシ
 ウスク (ウ) ス 薄クス
 ウスツク 白ツク (春ク)
 ウタガハシ 疑ハシ

(陋ム)
 苛ダツ
 色ヅク
 色ドル (彩ル)
 色メク

ウツラフ 移ラフ
 ウヅマル 埋マル
 ウトマシ 疎マシ
 ウトクス 疎クス
 ウトンズ 疎ンズ
 ウマル 生マル 産マル
 ウラナフ トナフ 占ナフ
 ウラムラクハ 恨ムラクハ 憾ムラクハ
 ウラヤマシ 羨マシ
 ウレシガル 嬉シガル
 ウレタシ 憂タシ
 ウレハシ 憂ハシ

オ

オイバム 老イバム
 オイテ 於テ
 オクマル 奥マル
 オクラカス 後ラカス
 オサフ 押サフ
 オソラクハ 恐ラクハ
 オンロシ 恐ロシ 怖ロシ
 オツテ 追ツテ
 オトナフ 音ナフ
 オドロカス 驚カス 愕カス
 オナジク (ウ) ス 同ジクス

★日用文字便覧

オホヤケニス、公ニス
 オモク(ウ)ス、重クス
 オモフニ、思フニ 顧フニ 惟フニ
 意フニ
 オモヘラク、意ヘラク 謂ヘラク
 (以爲ラク)
 重ンズ
 オモンズ
 オモンミルニ、惟ルニ
 カガヤカス、輝カス 燿カス 赫カス
 カガマル、屈マル 彎マル
 カク、斯ク

カ

(二六二)

カシコマル、畏マル
 カズマフ、數マフ
 カタク(ウ)ス、堅クス 固クス 鞏クス
 難クス
 カタジケナク(ウ)ス 辱クス
 カタドル、形ドル 象ドル 模ドル
 カタマル、堅マル 固マル
 カタラフ、語ラフ
 カタンズ、難ンズ
 カナシガル、悲シガル
 カナシム、悲シム
 カナラズシモ、必ズシモ
 カネテ、兼ネテ

カネテ、豫テ
 カヘツテ、卻ツテ 反ツテ
 ガヘンズ、肯ンズ
 カラウジテ、辛ウジテ
 カラク(ウ)ス、辛クス
 カルク(ウ)ス、輕クス
 カレバム、枯レバム
 カロク(ウ)ス、輕クス
 カロンズ、輕ンズ
 カワカス、乾カス 燥カス
 カヲラス、薰ラス
 カンガヘ、考ヘ

★カキークの部

キ

キガカリ、氣掛リ
 キズツク、傷ツク 創ツク
 キヅク、城ヅク (築ク)
 キハマル、極マル (窮ル) (究ル)
 キバム、黄バム
 キハメテ、極メテ
 キヨク(ウ)ス、清クス
 キヨマル、清マル 潔マル 淨マル

ク

クサギル、草ギル (耘ル)

(二六三)

| | |
|-------|-----------|
| クサラカス | 腐ラカス |
| クシケヅル | 櫛ケヅル (梳ル) |
| クダサル | 下サル |
| クチソソグ | 口ソソグ (嗽グ) |
| クユラス | 薰ラス |
| クラフ | 食フ |
| クラマス | 晦マス |
| クルシム | 苦シム 困シム |
| クルハス | 狂ハス |
| ココロミル | 試ミル |
| ココロヨシ | 心ヨシ (快シ) |

コ

| | |
|---------|------------|
| コトトス | 事トス |
| コトナル | 異ル |
| コトニス | 異ニス 殊ニス |
| コノマシ | 好マシ |
| コハバル | 強バル |
| コヒシ | 戀ヒシ |
| コヒネガハクハ | 尙ハクハ 冀ハクハ |
| コヤス | 希ハクハ 庶幾ハクハ |
| コラス | 肥ヤス |
| コロガス | 凝ラス |
| コロバス | 轉ガス |
| コロホヒ | 轉バス |
| | 比ホヒ |

サ

| | |
|--------|-------------|
| サカサマニス | 倒ニス |
| サカシマニス | 倒ニス |
| サカンニ | 盛ンニ |
| サキダツ | 先ダツ 前ダツ |
| サキンズ | 先ンズ 前ンズ |
| サダカニ | 定カニ |
| サダマル | 定マル |
| サダメテ | 定メテ |
| サムケシ | 寒ケシ |
| サヤケシ | 爽ケシ |
| サワガシ | 騒ガシ 躁ガシ 噪ガシ |

★コ-サ-シの部

シ

| | |
|---------|------------|
| サワガス | 騒ガス |
| サヲサス | 棹サス |
| シカ(ウ)シテ | 然シテ 而(ウ)シテ |
| シカシナガラ | 併シナガラ |
| シカラバ | 然ラバ |
| シカルニ | 然ルニ |
| シカレドモ | 然レドモ |
| シキリニ | 頻リニ 切リニ 連リ |
| シタシム | 親シム |
| シタハシ | 慕ハシ |

シヅカニ 静カニ
 シヅケシ 静ケシ
 シヅマル 静マル 沈マル 鎮マル
 シバラク 暫ク
 シヒテ 強ヒテ
 シラス 知ラス

ス

スカス 透カス
 スグス 過グス
 スクナクトモ 少クトモ
 スクフ 巢クフ
 スサマジ 荒マジ

スベテ

スマス 總ベテ 惣ベテ (都テ)
 スマフ 凡テ 渾テ
 スミヤケシ 濟マス 澄マス
 住マフ 棲マフ
 速ケシ

セ

セバク(ウ)ス 狭クス
 セバマル 狭マル 窄マル
 セマク(ウ)ス 狭クス

ソ

ソコナハル 害ハル 損ハル 賊ハル

ソバダツ 側ダツ (欵ツ) 仄ツ
 ソハル 峙ツ
 ソマル 添ハル 副ハル
 ソランズ 染マル
 ソレ 諸ンズ 夫レ

タ

タクマシク(ウ)ス 逞シクス
 タクミニ 巧ミニ
 タダ 只 唯
 タタカハス 戰ハス 鬪ハス
 タダシク 正シク

★スーセーソータの部

タダシク(ウ)ス 正シクス
 タタマル 疊マル
 タチドコロニ 立ドコロニ (立地ニ)
 タチマチニ 忽チニ
 タツクル 田ツクル (佃ル)
 タヅサハル 携ハル
 タトヘバ 例ヘバ 譬ヘバ
 タノシム 樂シム
 タノモシ 頼モシ
 タヒラカニ 平カニ
 タヒラケシ 平ケシ
 タマハル 給ハル 賜ハル
 タメ 爲

タラフ 足ラフ
タレ 誰レ

チ

チカク(ウ)ス 近クス
チカヅク 近ヅク
チカヨル 近ヨル
チヌル 血ヌル (衄ル)
チラス 散ラス

ツ

ツイデ 次イデ 尋イデ
ツイテハ 就イテハ 附イテハ

ツカサドル 司ドル (掌ル)
ツカハス 遣ハス 使ハス
ツギニ 次ギニ
ツクス 盡クス 竭クス 歇クス
ツトメテ 殫クス 殲クス
ツヒヤス 務メテ 勉メテ 力メテ
ツマビラカニス 費ヤス
ツمام 詳ニス 審ニス
ツヤマク 摘مام (撮ム)
ツユケシ 艶メク
ツラナル 露ケシ
列ナル 連ナル 行ナル
(聯ル 羅ル)

テ

ツラヌク 貫ヌク (串ク)
ツルス 釣ルス (吊ス)
ツエツク 杖ツク
テヅカラ 手ヅカラ
テラス 照ラス

ト

トカス 解カス 融カス
トキメク 時メク
トドロカス 轟カス
トホク(ウ)ス 遠クス

★チーツーテートーナの部

ナ

トホザカル 遠ザカル
トホザク 遠ザク
トマス 富マス
トモナフ 伴ナフ
トモニス 俱ニス 與ニス 偕ニス
トラフ 共ニス
トリコニス 執ラフ
ナカバス 擒ニス
ナイガシロニス 蔑ニス
ナカス 泣カス 啼カズ 鳴カス
ナカバス 半バス

ナガラク 長ラク 永ラク
 ナガラフ 長ラフ 永ラフ (存フ)
 ナゲカシ 歎カシ
 ナゲカハシ 歎カハシ 慨カハシ 慟
 ナツカシ 懐カシ
 ナヅク 名ヅク
 ナビカス 靡カス
 ナミス 無ミス (蔑ス)
 ナミダグム 涙グム
 ナヤマシ 惱マシ
 ナラス 鳴ラス
 ナラハス 習ハス

ナラビニ 竝ビニ
 ナンスレゾ 何スレゾ (何爲レゾ)
 ナンナントス 垂トス

ニギヤカ 賑ヤカ
 ニクガル 憎ガル
 ニクラシ 憎ラシ
 ニツカハシ 似ツカハシ
 ニナフ 荷ナフ (擔フ)
 ニホハシ 匂ハシ

又

ヌカヅク

額ヅク

抽キンヅ 擢キンヅ 挺

キンヅ

ネ

ネカス 寢カス
 ネガハクハ 願ハクハ
 ネガハシ 願ハシ
 ネガヒ 願ヒ
 ネタマシ 妬マシ
 ネムタシ 眠タシ

ハ

ノゾマル 望マル
 ノゾムラクハ 望ムラクハ
 ノドケシ 長閑ケシ
 ノバス 延バス
 ノリ(ツ)トル 則トル 法トル
 ハガス 剝ガス
 ハカドル 拂ドル
 ハカナシ 儂シ
 ハゲシク(ウ)ス 激シクス
 ハゲマス 勵マス
 ハサマル 夾マル 挟マル

★ニ一ヌ一ネ一ノ一ハの部

| | | | |
|---------|------|------|-----|
| ハジメテ | 初メテ | 始メテ | 甫メテ |
| ハタシテ | 果シテ | | |
| ハヅカシ | 恥ヅカシ | 羞ヅカシ | |
| ハナサク | 花サク | | |
| ハナハダシ | 甚ダシ | | |
| ハヤク(ウ)ス | 早クス | | |
| ハヤマル | 早マル | | |
| ハルケシ | 遙ケシ | | |
| ハルカニ | 遙カニ | | |
| ヒクク(ウ)ス | 低クス | 卑クス | |
| ヒクマル | 低マル | 卑マル | |

| | | | |
|---------|------|---------|-----|
| ヒサシク | 久シク | | |
| ヒソマル | 潜マル | | |
| ヒトシク | 均シク | 齊シク | 等シク |
| ヒトシクス | 均シクス | 齊シクス | |
| ヒトリ | 獨リ | | |
| ヒラタシ | 平タシ | (坦シ 遍シ) | |
| ヒルガヘツテ | 翻ツテ | | |
| ヒロガル | 弘ガル | 廣ガル | |
| ヒロク(ウ)ス | 博クス | 廣クス | 弘クス |
| ヒロマル | 廣マル | 弘マル | |

フ

ヒ

| | | | |
|---------|-------|---------|--|
| フカク(ウ)ス | 深クス | | |
| フサガル | 塞ガル | 窒ガル | |
| フタタビス | 再ビス | | |
| フタツナガラ | 兩ツナガラ | 二ツナガラ | |
| フトク(ウ)ス | 太クス | | |
| フトコロニス | 懐ニス | | |
| フルツテ | 奮ツテ | | |
| フルフ | 振ルフ | (震フ 奮フ) | |

ホ

マ

| | | | |
|----------|-----|-----|--|
| ホシイママニス | 恣ニス | 擅ニス | |
| ホソク(ウ)ス | 細クス | | |
| ホトンド | 殆ンド | | |
| ホロボス | 亡ボス | 滅ボス | |
| マサシク | 正シク | | |
| マジラフ | 交ラフ | | |
| マタ | 又、亦 | | |
| マタガル | 跨ガル | | |
| マツタク(ウ)ス | 全クス | 完クス | |

★ヒーフーへーホーマの部

ヘラス

減ラス 耗ラス

マトハス 纏ハス 絡ハス
 マドハス 惑ハス
 マドハカス 惑ハカス
 マロガス 團ガス
 マロパス 轉パス
 マキラス 參ラス

ミ

ミジカク(ウ)ス 短クス
 ミタス 満タス 充タス
 ミダリニ 猥リニ 妄リニ 濫リニ
 ミチビク 道ビク(導ク)
 ミヅカフ 水カフ(飲フ)

ミナゴロシニス 塵ニス
 ミニクシ 見ニクシ(醜シ)
 ミノル 實ノル(登ル)

ム

ムクツケシ 醜ケシ
 ムシバム 蟲バム(蝕ム)
 ムチウツ 答ウツ 鞭ウツ(撻ツ)
 ムツマシ 睦マシ
 ムナシク 空シク
 ムナシク(ウ)ス 虚シクス 空シクス

メ

メアハス 女アハス 妻アハス
 メグラス 回ラス 巡ラス 環ラス
 メダツ 運ラス 繞ラス
 メヅラシ 目ダツ
 メデタシ 珍ラス
 愛デタシ

モ

モシクハ 若シクハ
 モツテス 以テス
 モツバラニス 専ラニス
 モツトモ 最モ 尤モ
 モトヅク 基ヅク 本ヅク

★ミームーモーモーヤの部

モトヨリ 素ヨリ 固ヨリ 本ヨリ
 モドラス 原ヨリ 元ヨリ
 モノノカズトセズ 振ラス 戻ラス
 モラス 屑トセズ
 漏ラス 泄ラス 洩ラス

ヤ

ヤスク(ウ)ス 安クス 靖クス
 ヤスケシ 安ケシ
 ヤスマル 休マル
 ヤスラカニ 安ラカニ
 ヤスラケシ 安ラケシ
 ヤスラフ 休ラフ(息フ)

ヤスンズ 安ンズ 靖ンズ 緩ンズ
 ヤマル 止マル
 ヤヤモスレバ 動モスレバ

ユ

ユキフル 雪フル
 ユタケシ 豊ケシ
 ユビサス 指サス
 ユミメル 夢ミル
 ユルカセニス 忽セニス
 ユルヤカニス 緩カニス 寛カニス
 ユエツク 故ツク

ヨ

ヨギル 過ギル
 ヨクス 能クス 克クス 善クス
 ヨコギル 横ギル
 ヨコタハル 横タハル
 ヨコタフ 横タフ
 ヨシメク 由メク
 ヨツテ 因ツテ 依ツテ 仍ツテ
 ヨバハル 呼バハル 喚バハル
 ヨバフ 呼バフ 喚バフ
 ヨロコバシ 喜バシ 悦バシ 歡バシ
 ヨロシク 宜シク

ワ

ワカス 湧カス 沸カス
 ワカツ 分ツ
 ワカヤグ 若ヤグ
 ワカレ 分レ
 ワヅカニ 僅カニ 纒カニ
 ワヅラハシ 煩ハシ
 ワヅラハス 煩ハス 累ハス

エ

エガク 畫ガク (描ク)
 エマシ 笑マシ

ヲ

ヲシケシ 惜シケシ
 ヲシム 愛シム 惜シム (吝ム)
 ヲハリ 終リ
 ヲハンヌ 了ンヌ 終ンヌ 畢ンヌ

井

井ナガラ 坐ナガラ

國字便覽

國字は、漢字に倣つて、我が國で製作したもので、二三を除く外は、大抵、訓のみ有つて、音がない。

四畫

【夂】 もんめ。(文とメの合字。)

五畫

【凧】 たこ。いかのぼり。(風で上る巾。)

【亅】 すべる。(一の字のやうに障なく行く。)

【凵】 かます。(口あつて物を入れる。)

六畫

【笔】 むしる。(毛を少くす。)

【恠】 こらふ。(心を永くす。)

【枿】 ます。(木の升。)

【料】 デカメートル。(十メートル。)

九畫

【厖】 ミリグラム。(一グラムの千分の一。)

【俛】 おもかけ。(弟は兄の面影を存す。)

【俚】 くるま。(人力車)

【峠】 たうげ。(山の上り下る處。)

【畑】 はた。はたけ。(草を焼いて種を蒔く田。)

【証】 まさ。(木理が正しく通つてゐること。)

【込】 こむ。(送り入る。)

【辻】 つじ。(路が縦横に通じた處。)

【凧】 なぐ。なぎ。(風止む。)

【凧】 こがらし。(風木を吹く。)

七畫

【呎】 フイート。

【袖】 そま。(材木を植ゑつけた山。山林を伐り出す人。)

【狎】 ちん。

【俣】 また。(姓名に用ひる。)

八畫

【氙】 キログラム。(千グラム。)

【迓】 とて。とても。(中間に往來する意。)

【榭】 とが。つが。(椽に似た木。)

【枿】 とち。(枿とも書く。木の名。)

【粃】 もみ。(殻皮を去らぬ米。又もみがら。)

【秆】 キロメートル。(千メートル。)

十畫

【哩】 マイル。

【皁】 畑に同じ。(白く乾いた田の意。)

【榭】 さかき。(神事に用ひる木。)

【枿】 かせ。かせぎ。かせひ。(つむで取つた糸をかける具。)

【菫】 ところ。(一種の蔓草。)

十一畫

【笹】 ささ。(竹の葉。)

【頭】 ヘクトグラム。(百グラム。)

【扮】 せがれ。(親の身を分けたるもの。)

【間】 つかふ。つかへ。(門前に山あつて妨となる。)

【拂】 しきみ。(佛事に用ひる木。)

【桮】 ふもと。(山林の下の處。)

【聲】 うそ。(口から出まかせの空虚な語。)

【耗】 ミリメートル。(一メートルの千分の一。)

十二畫

【嵐】 おろし。(山上から吹きおろす風。)

【袴】 かみしも。(肩衣と袴と上下同色のもの。)

もの。)

【罽】 はば。の。(布帛の幅。)

【楯】 すぎ。(楯の轉訛。)

【梳】 もみち。(木の葉色づいて花の如き意。)

【柶】 くぬぎ。(木の名。)

【箱】 ヘクトメートル。(百メートル。)

【枕】 くら。(草を枕に臥す。)

【昂】 さやけし。さやかなり。

【鉦】 はばき。(刀劍の鏑もとを堅める金具。)

十三畫

十四畫

【惣】 ねらふ。(身を忍ばせてねらふ。)

【睨】 しかと。(たしかに定める。)

【銖】 かすがひ。(銖に同じ。)

【糝】 かうち。(米の花のやうなもの意。)

【鞞】 とも。(革に火の模様を書いたもの。)

【蔴】 ござ。(草で編んだ御座。)

十五畫

【緘】 をどし。をどす。(鎧の小札を綴る糸や革。又小札を綴ること。)

【糎】 サンチメートル。(一メートルの百分の一。)

【鉞】 びやう。

【働】 はたらく。(人動く。)

【楯】 こまひ。かべしたち。(壁の骨とするもの。)

【椽】 はにぎふ。はんぎふ。(水を盛つて他の物に注ぐに用ひる具。)

【腺】 せん。(生物體肉にある機關で、分泌作用を営むもの。)

【認】 かすり。(飛白。)

【適】 あつばれ。(南方に向へば明い。天晴。)

【魷】 ゑぞ。(魚の名。又ゑりといつて魚を捕るもの。)

【鴉】 にほ。(水中に入る鳥。)

【錠】 ぢやう。(貴人の仰せ。ごぢやう。)
 【鞆】 こはせ。(革製のものを上下閉ぢ合せる意。)

【鮓】 なまづ。

十六畫

【櫛】 かし。(堅い木。)
 【噺】 はなし。(口から新しく出すもの。)
 【臍】 する。(臍臓。又腺の大なるもの。)
 【躰】 しつけ。(身を美しくす。)
 【銚】 になえ。(刀刃に雲形のやうにあらはれるあや。)

【銚】 かがり。

【鉞】 ぶりき。

【鯨】 いさぎ。
 【鯨】 このしろ。
 【鴨】 しぎ。(田に居る鳥。)
 【鮮】 ひらめ。

十七畫

【禪】 ちはや。(たすきの類。巫女の服。)
 【燧】 こたつ。
 【鯨】 おほぼら。(鯨の成長したもの。)
 【鰻】 うぐひ。
 【鴨】 とぎ。つき。
 【衡】 ちどり。

十八畫

【鯨】 はばき。鯨に同じ。

【鏝】 かがひ。(金をつぼの中に送り込

い。)

【燈】 ひをむし。(朝に生れ夕に死ぬとい

ふ一種の蟲。)

【鮭】 すばしり。(初生のぼら。)

【鱸】 かすのこ。

【鮪】 こち。

【鯛】 あさり。

【鴛】 かけす。

【麿】 まろ。(麻呂の合字。)

十九畫

【鯨】 しやちほこ。しやち。

【鯨】 なまづ。

【鯨】 いさぎ。

【鯨】 このしろ。

【鴨】 しぎ。(田に居る鳥。)

【鮮】 ひらめ。

十七畫

【禪】 ちはや。(たすきの類。巫女の服。)

【燧】 こたつ。

【鯨】 おほぼら。(鯨の成長したもの。)

【鰻】 うぐひ。

【鴨】 とぎ。つき。

【衡】 ちどり。

十八畫

【鯨】 はばき。鯨に同じ。

【鯨】 どぢやう。

【鵞】 きくいだき。

廿畫

【鯨】 ぎぎ。(なまづに似た魚。)

【鯨】 はえ。はや。はい。(あゆに似て小

さい。)

【鯨】 はらか。(鯨の異名なりといふ。)

廿一畫

【鯨】 はたはた。(雷魚。)

【鯨】 いわし。(弱い魚の意。)

廿二畫

【鯨】 やり。(突き遣るもの。)

【鯨】 たら。

★日用文字便覽

【鯨】 あんかう。鯨鯨と連用す。

【鯨】 はえ。鯨に同じ。

廿三畫

【鯨】 きす。

【鯨】 さば。

廿四畫

【應】 やがて。(身に應じてなす。)

【襪】 たすき。(衣を擧げるもの。)

【鯨】 あいさやう。鯨鯨と連用す。

【鯨】 鯨字を見よ。

【鯨】 はたはた。鯨に同じ。

【鯨】 しびら。

廿六畫

(二八四)

【鯨】 はえ。鯨に同じ。

國訓便覽

(括弧中に記せるは漢字の原義)

國訓は、我が國で、漢字の意義を引き伸べて轉用したり、種類や字體の類似から誤用したり、全く漢字の原義に頓著なく使用したもので、中には、随分不穩當なものもあるが、慣用久しくして、今更改めることの出来ぬものである。

二畫

【厂】 かり。がん。(きし。いは。)

【丁】 ちやう。偶數。町。書物の紙を數へ

★國訓便覽

るに用ひる字。(壯丁。ひのと。)

三畫

【丸】 まる。圓形。全形。城の郭内の稱。

本丸・二の丸の類。人物・船舶・器具等の名に添へて用ひる字。牛若丸・八幡丸。雪切丸の類。(たま。)

四畫

【勻】 にほふ。かをり。(ひとし。ととのふ。)

【尤】 もつとも。(とがむ。すぐる。)

【反】 たん。田島布帛等を計る名。(そむく。)

五畫

(二八五)

【立】 リットル。(たつ。)

【存】 意・存念・存分・愚存など。用ひる。(存在。)

【平】 ひらに。(たひらか。)

【扱】 さて。(さす。はさむ。)

【半】 はん。奇數。(なかば。)

【吋】 インチ。(しかる。)

【仕】 つかまつる。(つかふ。)

【串】 くし。(つらぬく。)

【叶】 かなふ。成る、能くす。(協に同じ。)

【床】 ところゆかし。床の間の略。疊の心。車の屋形。理髮床の略。室床の略。(ゆか。)

【井】 どんぶり。(井中に物の落つる聲。)

【瓦】 グラム。(かはら。)

六畫

【企】 くはだつ。事を爲し始む。(踵を擧げて立つ。つまだつ。)

【安】 やすし。物價の廉なること。(安泰。)

【存】 ぞんず。思ふ、知るなどの意で、存

【伽】 とぎ。(梵語のカ・ガの音をあらはすに用ひる字。)

【忍】 しのぶ。思ひ慕ふ。ひそかにかくれる。草の名。(こらふ。たふ。)

【沖】 おき。(湧く。深し。)

【呆】 あきる。(おろか。癡呆。)

【抔】 など。(手で物をすくふ。)

【吳】 くる。くれる。(國名。)

【私】 わたくし。わたし。自家の謙稱。(公の反對。)

【迪】 たどる。尋ね迷ふ。心を籠めて考へる。(緩く歩む。)

【扱】 あつかふ。(收む。)

【杜】 もり。(ふさぐ。)

【作】 さく。裝飾、體裁、耕作のみり。(つくる。)

【侘】 わぶ。侘をも用ひる。(ほか。他に同

じ。)

【折】 をり。場合、機會。へぎを折り曲げて作つた匣。(をる。)

【倅】 せがれ。倅の字の誤。(憔悴と熟する字で、やつる、おとろふ。)

八畫

【社】 やしろ。(土地の神。)

【亞】 アール。(つぐ。)

【坪】 つぼ。(平地。)

【咄】 はなし。(しかる。しかる聲。)

【芝】 しば。(くさびら。靈芝。)

【侘】 わぶ。(おごる。ほこる。)

【戾】 もどる。もどす。(そむく。)

【門】もん。大砲を數へるに用ひる。(入口。)

【帖】でふ。折本、折手本、紙の枚數。(布帛に字を書いたもの。)

【届】とどく。申し上げる。(とどく。及ぶ、いたる。)

【返】かへし。かへり。返歌、手紙の返事。漢文訓讀の符號。(かへる。)

【杭】くひ。(ふね。いかだ。)

【卸】おろし。問屋から商品を受賣人に渡して賣らせること。(おろす。ぬぐ。)

【宛】あて。づつ。(あたかも。かがむ。)

【和】わ。種々の事物に冠らせて日本の義

(二八八)
に用ひる。(やはらぐ。)

九畫

【柏】かしは。榭。(ひのき。)

【砌】みぎり。時、折柄。(みぎり。いしだたみ。)

【拵】こしらふ。こしらへ。(据る。)

【若】わかし。弱の字と同音であるので借りて用ひる。(汝。もし。)

【柄】がら。身分。性質。(器物の把手。え。)

【持】かせぐ。(もてあそぶ。)

十畫

【倩】つらつら。(うるはし。)

【唄】うた。(梵唄。佛徳をほめるうた。)

【俵】たはら。(散る。分つ。)

【倅】あざける。なぶる。(さへづる。)

【併】しかし。(あはす。)

【蝸】たこ。(のみ。蚤。)

【倅】ぬかる。(いそがし。)

【哩】マイル。わい。(助語。)

【差】さす。さし。(たがふ。)

【能】のう。謠曲にあはせて演ずる舞樂の名。(よくす。)

【捌】さばく。(わかつ。)

【徒】いたづら。悪戯、私通。(ただ。いたづらに。)

【株】かぶ。株券。營業權。家格名跡。おさまり。(木の根幹。)

【抄】はかどる。(收む。)

【胴】どう。(大腸。)

【荒】ある。あらし。騷亂。粗暴。(ある。荒廢。)

十一畫

【紋】もん。家々の定めの徽章。(模様。)

【粉】デシメーメル。一メートルの十分の一。(こ。)

十二畫

【借】さて。(さけひらく。捨の訛。)

【這】はふ。(迎ふ。)

【悴】せがれ。(悴と同じ。)

【淋】 さびし。(そそぐ。)

【梶】 かぢ。(こする。)

【錠】 おきて。(揮ひ張る。)

【蛀】 たまむし。(一種の蟲の名。)

【尉】 じよう。(おさふ。うかがふ。)

【掛】 かかり。受持。費用。(かく。)

【陸】 ろく。面形の正しく整へること。(りく。くが。)

【崎】 さき。(けはし。岸。)

【葱】 しのぶぐさ。(にんどう。葱冬。)

【偲】 しのぶ。(つとむ。)

【蛸】 あはび。(不詳。)

【箝】 しがらみ。(冊又は策に同じ。)

【据】 すう。(もつ。よる。)

【箴】 ど。竹で作つて鰻・鱈などを捕へる具。(烏かご。)

【姫】 よめ。(星宿の名。)

【寄】 よる。集合。途中の訪問。(よる。よす。わが身をよせること。)

【組】 くむ。徒黨仲間。(くみひも。くむ。)

【健】 したたか。(たけし。すこやか。)

十二畫

【番】 ばん。雑用の粗品に被らす字で、番茶。番傘。等級順序を示す字で、一番二番。つがふ。組合ふ。(かはるぐ。)

【菅】 すげ。(かや。)

【茸】 きのこ。たけ。(しげし。)

【揃】 そろふ。(きる。わかつ。)

【晴】 はる。はらす。はれ。思の解け開く

こと。多勢の中でおもてだつこと。(はる。青天。)

【揉】 もめ。不和。混雜。(もむ。)

【奔】 ひしめく。(はしる。奔に同じ。)

【貫】 もらふ。(代價を借る。)

【渡】 わたらひ。生計。わたり。舶來。(わたる。)

【森】 もり。(木の多き貌。)

【筈】 はず。當然の意。(はず。弦を受ける矢の末端。)

【嵐】 あらし。(山氣。)

【筒】 つつ。鐵砲。井戸側。(つつ。くだ。)

【貼】 てふ。藥の包を敷へるに用ひる字。(つく。)

【給】 たまふ。(あてがふ。)

【割】 わり。わり前。十分の一。(さく。)

十三畫

【賄】 まかなふ。(たから。財貨。)

【詰】 つむ。つまり。(せむ。なじる。)

【椿】 つばき。(年壽最も長しと稱する一種の靈木。)

【椹】 さはら。(桑の實。)

【蛸】 たこ。(あしたかぐも。)

【嵩】かさ。(山の名、五嶽の一。)

【極】きままり。(きはまる。きはむ。)

【楠】くす。(ゆづりは。)

【厩】ちつ。女子の陰門。(肉生ず。)

【道】さすがに。(偵に同じ。うかがふ。さぐる。)

【殿】との。どの。貴人の尊稱。他の姓名に添へて敬ひ呼ぶに用ひる字。(莊嚴なる堂屋。)

【萩】はぎ。(よもぎ。)

【詫】わび。わぶ。謝罪。(あざむく。ほこる。)

【溜】たまる。ため。(したたる。)

【蝮】たひらぎ。一種の介蟲。(はたおり。蟹の鹽漬。)

【蜷】にな。みな。一種の介蟲。(蟲の屈曲して行く貌。)

【鮎】はえ。はや。(すなふき。鮎に同じ。)

【態】わざわざ。(かたち。)

【認】したたむ。(みとむ。)

【嘘】うそ。(ふく。氣を緩く出す。)

【駄】だ。事物の上に冠して劣等の義を示す。駄菓子、駄作、駄洒落の類。(本字は駄で、馬が荷物を負ふ貌。)

十五畫

【調】しらぶ。點檢。吟味。(とよのふ。聲)

【鉢】はち。(僧家の食器。)

【詭】あつらふ。(いざなふ。)

【預】あづかる。あづく。他の物を我が保管し、又我が物を他に保管させること。(あづかる。かかはる。參與する。)

十四畫

【摺】する。(ひだ。やぶる。)

【擱】つかむ。(うつ。)

【漢】かん。から。あや。種々の事物の上に冠らせて、支那の義に用せる字。(支那上代の國號。)

【楨】まさ。(こする。)

【榎】えのき。(ひさぎ。)

音の和合すること。

【糝】つき。(枝が下り曲ること。)

【様】さま。人の姓名の下に添へて敬ひ呼ぶに用ひる字。(かたち。もやう。)

【榧】ひ。とひ。(一種の木。)

【熨】のし。のしあはび。うちあはび。(ひのし。あたたむ。)

【潟】かた。(そそぐ。)

【稼】かせぐ。(植う。禾穀のよくみのりし實。)

【應】さぞ。(應答の明ならぬ貌。)

【聾】とつと。多人數が一時に高く聲を出すさま。(むさぼり食ふ貌。)

【暮】 くらす。くらし。日を送る。活計くつげい。

(くる。ひぐれ。)

【鬚】 たば。つと。(鬚多き貌ひげおほかたち)

【鮫】 こち。ほしうを。(枯魚こぎよ)

【鮪】 かます。(鮪ぶりに同じ。一種の毒魚どくぎよ)

十六畫

【澳】 おき。沖おきに同じ。(ふかし)

【櫛】 ひひらぎ。(きり)

【儂】 はかなし。(くらし)

【擋】 とても。(おほひかくす)

【滯】 みぞ。みよ。(川かはの名)

【積】 つもる。つもり。心算しんさん。豫算よさん。(つむ。つもる。累ぬ。聚む。)

【瘡】 しやく。(瘡やす。)

【膳】 せん。(そなふ。くらふ。)

【錆】 さび。(くはし。)

【鏡】 かなまり。わん。(鋤すきの頭の曲まがつた

鐵てつ。)

【鎗】 たたら。ふいがうの大だいなるもの。(く

さび。車くるまの具。)

【縞】 しま。(ねり絹ぎぬ。しろ絹ぎぬ)

【鮎】 あゆ。香魚かうぎよ。(なまづ。)

十七畫

【薄】 すすき。(くさむら。)

【鼻】 かかあ。(鼻はないき。)

【檜】 ひのき。(びやくしん。柏心びやくしん)

十八畫

【儲】 まうく。利益りえきを得ること。(まうく。設まうけ備さなへること。)

【揆】 こそぐる。(うつ。)

【鶺鴒】 う。鶺鴒う。(伽藍鳥がらんてう。ペリカン。)

【鴝】 ほほじろ。(ほととぎす。)

【磻】 はたと。物音ものおと。事の行ゆきつまるま。

にらみつけるさま。(底そこ)

【鎬】 しのぎ。(なぐ。)

【鮓】 たこ。蛸さうに同じ。(一種の魚。)

【鯨】 あち。(鯨かうは雄蟹おとこ)

十九畫

【瀧】 たき。(雨あめの降ふるさま。はやせ。)

【礎】 いそ。(かはら。)

【縮】 ちぢみ。織物おりものの名。(ちぢむ。)

【戴】 いただく。謹つつしんでもらひ受ける。(い

ただく。頭上づじやうに物ものを載のせること。)

【鍍】 くさり。(かざる。きせ。)

【鏑】 つば。(刀かたなの刃は)

【霞】 かすみ。(朝あさやけ。夕ゆふやけ。)

【餅】 もち。(麩むすこをこね合あはせて作りたる食しよく

物。)

【鮎】 かます。鮪ぶりに同じ。(不詳ふしやう)

【鮪】 せいご。(たなご。)

【鮠】 はえ。はや。鮠はえに同じ。(いなまづ。)

【鮠】 さけ。(ふぐ。)

【澗】 とろ。河水の波の穏なこと。(きよし。)

【堰】 びん。(さかがめ。)

【藪】 やぶ。(大澤。)

【鯉】 にしん。(魚の子。)

【鯛】 たひ。(一種の魚。)

【鶉】 ぬえ。(雉に似た鳥。)

【鶉】 ぬえ。鶉に同じ。(一種の怪鳥。)

【襦】 まち。衣服や袴などの幅の足らぬ處

に添へるきれ。(したももひき。)

【襖】 ふすま。唐紙。(うはぎ。)

二十畫

【鯉】 ひしこいわし。鯉に似て小なるもの。

(なまづ。)

【鰯】 するめ。(あかうなぎ。)

【鰻】 ふぐ。(あはび。)

【鱈】 さはら。(海魚の一種。)

【鰈】 かじか。ごり。いなだ。(どちやう。)

【鏝】 びた。金質不良のせに。(しころ。)

【觸】 ふる。廣く告げ知らず。(さはる。を

かす。)

【露】 つゆ。少しもの意。(つゆ。)

廿一畫

【鰯】 こじり。(釜の類。)

【鰻】 つくら。いなの小なるもの。(うみ

えび。)

【鱒】 ぶり。(老魚。一種の毒魚。)

【鰻】 ひわ。(たうまる。鰻。)

【鶯】 うぐひす。(高麗うぐひす。)

【櫻】 さくら。(ゆすらうめ。櫻桃。)

廿二畫

【轡】 くつわ。(たづな。)

【灘】 なた。(はやせ。)

【疊】 たたみ。(たたむ。かさなる。)

【鰻】 あち。鰻に同じ。(なまぐさし。)

【鰻】 かつを。松魚。(一種の魚。)

【鰻】 せいご。鯨に同じ。(こひ。にしん。)

廿三畫

【鰻】 ごまめ。(うみへび。)

廿六畫

【鰻】 ふか。(ひもの。ほしうを。)

日用文字便覽終

大正七年一月廿五日印刷
大正七年一月三十日發行

科外教育叢書
日用文字便覽與附 38



科外教育叢書刊行會編輯部編纂

並代表
發行者

東京市神田區錦町三丁目十七番地
大葉久吉

印刷者

東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地
青柳十一郎

印刷所

株式會社 秀英舍第一工場

發行所

東京市神田區錦町三丁目
振替東京六三八四番
大阪府西區靱下通二丁目
振替大阪一八四九番

科外教育叢書刊行會
科外教育叢書刊行會支部

録目次編書叢育教外科

回 一 第

功名物語
國史趣味讀本
博物界の現象
日本の精華
世界の風俗

回 二 第

立憲蜜柑箱の机
通俗理化現象
國語要説
化學工業の話
古今名文集

回 三 第

内外教訓物語
天文と地理
楠木正成
ケルザル
現代書翰文範

回 四 第

作文新資料
内外名婦傳
日用法律顧問
國民年中行事
小説鷹雄と海老太郎

回 五 第

内外逸話文庫
瑞西の義民
海上生活
現代女用文範
世界發明物語

回 六 第

明治御製謹解
アーサー王物語
格言俚諺辭典
イソップ物語
内外立志談

回 七 第

支那の文物
花ものがたり
内外歴史美談
漢文要説
西郷隆盛

回 八 第

博物辭典
世界の三聖
日用文字便覽
古今忠孝美談
日本の名勝

回 九 第

大石良雄
現代記叙説文範
動物と人生
商業の話
十大詔勅謹解

回 十 第

先哲遺訓集
内外人名辭典
通俗物理網要
生物奇談
家庭教訓童話

回 十一 第

外國の名勝
俗生理衛生
狂歌と川柳
通俗經濟講話
ナボレオン

回 二十 第

古今の兵器
植物と人生
和歌と俳句
世界の奇聞
内外武勇談

行刊次順宛冊五月毎

355
84

終